# Multi LABELIST Component
# リファレンスマニュアル

株式会社サトー

2026年10月27日

# はじめに

この度は、「Multi LABELIST Component」(以下 MLComponent)をご利用いただき誠にありがとうございます。MLComponent は、弊社製汎用ラベル・タグ発行ソフトウェア「Multi LABELIST V6」(以下 MLV6)の資産を利用し、お客様のアプリケーションにラベル・タグ発行機能を追加するために開発した.NET コンポーネントです。

MLV6 で作成したレイアウトファイルをもとに、自由度の高いラベル／タグ発行システムを構築していただくために MLV6 の一部の機能は省かせていただきましたが、USB、LAN、COM(シリアルポート)、および弊社製プリンタドライバと、出力デバイスを問わない設計が可能です。ステータス監視機能をサポートしており、プリンタがどのような状態になっているか取得することができます。

本マニュアルでは MLComponent のプロパティ・メソッドについてご説明しております。
用途別の利用方法については「**MLComponent テクニックマニュアル**」、
ML 製品を初めてご利用する方は「**MLComponent 練習マニュアル**」をご参照ください。

# ご注意

- 本マニュアルの一部または全部を弊社の許可なく複写・複製することは、その形態を問わず禁じます。
- 本マニュアルの内容は、訂正・改善のため予告なく変更することがあります。
- 本マニュアルを運用した結果の影響については責任を負いかねますのでご了承下さい。
- 本マニュアルの内容については万全を期しておりますが、万一ご不審な点やお気づきの点がございましたら、弊社までご連絡ください。

- SATO、Multi LABELIST は、株式会社サトーの登録商標または商標です。
- Microsoft、Windows は、米国マイクロソフト社の登録商標です。
- その他記載されている会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

# 対象バージョン

このドキュメントは下記のソフトウェアおよびバージョンを対象としております。
ご利用のバージョンによって対応機能の過不足や内容変更の可能性があることを予めご了承ください。

Multi LABELIST Component　Ver.6.2.6.0 以降

目次

はじめに....2
ご注意....2
対象バージョン....2
第１章 製品情報....6
1-1.必要なハードウェア・ソフトウェア....7
■ハードウェア....7
■ソフトウェア....7
■レイアウトファイル....7
■サポートプリンタ....7
1-2.MLComponent 機能一覧....8
■プロパティ一覧....8
■メソッド一覧....9
第２章 プロパティ....10
2-1.[通信]Setting....11
2-2.[通信]Protocol....14
2-3.[通信]Timeout....16
2-4.[通信]StatusID....18
2-5.[通信]JobName....19
2-6.[基本]LayoutFile....20
2-7.[基本]PrnData....21
2-8.[基本]PrnDataType....23
2-9.[動作]Darkness....24
2-10.[動作]Speed....26
2-11.[動作]Offset....28
2-12.[動作]MultiCut....29
2-13.[動作]SortMark....31
2-14.[動作]EjectCut....32
2-15.[動作]HeaderTailSetting....33
2-16.[動作]HeaderFile....35
2-17.[動作]TailFile....36
2-18.[特殊]Formoverlay....37
2-19.[特殊]LayoutNameCaption....39
2-20.[特殊]TotalQtyCaption....40
2-21.[特殊]TaxRate....41
2-22.[情報]Version....42
第３章 メソッド・例外....43
3-1.[通信]OpenPort....44

3-2.[通信]ClosePort ..... 46
3-3.[発行]Output ..... 47
3-4.[発行]OutputHeader ..... 49
3-5.[発行]OutputTail ..... 51
3-6.[発行]SendStringData ..... 53
3-7.[発行]SendRawData ..... 55
3-8.[発行]GetStatus ..... 57
3-9.[制御]Cut ..... 58
3-10.[制御]SendCancel ..... 60
3-11.[情報]GetPrinter ..... 61
3-12.[データ]GetInputFields ..... 62
3-13.[データ]SetPrnDataField ..... 64
3-14.[データ]GetPrnDataArray ..... 66
3-15.[データ]SetPrnDataArray ..... 67
3-16.[デバイス]EnumerateBluetoothDevices ..... 69
3-17.[デバイス]AuthenticateBluetoothDevice ..... 71
3-18.[例外]MLComponentException クラス ..... 73
3-19.[エラー]通信エラー ..... 75
3-20.[エラー]発行エラー ..... 76
■例外エラーについて ..... 82

**第 4 章 利用方法・注意事項 ..... 83**

4-1.プログラミングについて ..... 84
■バージョンアップについて ..... 84
■同一データのラベルを複数枚発行する場合 ..... 84
■カット動作に関して ..... 84
■ASP.NET での利用 ..... 84
■初回起動時・レイアウトファイルロード時の遅延 ..... 84
■高 DPI 設定について ..... 84
■メモリ使用量について（レイアウトが崩れる現象） ..... 85
■マルチスレッドの利用 ..... 85
■Visual Studio 上の例外について ..... 85
■プリンタのスリープモードについて ..... 85
■Windows フォント(WPF)の全角スペースが.NET Framework のバージョンによって異なる 85
■Windows フォント(WPF)の使用について ..... 86
■発行履歴について ..... 86
4-2.インターフェースについて ..... 87
■LAN ..... 87
■USB ..... 87
■COM ..... 89
■Bluetooth ..... 89

■プリンタドライバ……90
4-3.レイアウト情報について……92
■入力定義……92
■Windows フォント……92
■グラフィックオブジェクト……92
■固定オブジェクト（発行速度の改善）……92
■連番変数……92
■多面取りラベル……93
■シンボル描画エラーの利用……93
■RFID オブジェクトの最小/最大桁数について……93
■RFID オブジェクト(UHF)の桁数単位について……93
■ファイル形式設定……94
**第５章 付録……95**
5-1.サポートプリンタ……96
■シータシリーズ……96
■レスプリシリーズ……96
■スキャントロニクスシリーズ……96
■SATOC シリーズ、エヴィシリーズ、バートロニクスシリーズ、FLEQV……97
■ラパンシリーズ……97
■タフアームシリーズ……97
■海外プリンタ……98
5-2.ステータス一覧……99
■ステータス文字列……99
■ステータス一覧（ステータス 3、ステータス 4）……99
■ステータス一覧（PW208NX シリーズ、PW4NX 追加分）……100
■ステータス一覧（ステータス L 追加分）……100
■ステータス一覧（PT408e、PT412e 用ステータス 3）……101
■ステータス一覧の送信可否・復旧可否……101
■プリンタエラーの解除方法……102

# 第１章

# 製品情報

# 1-1 必要なハードウェア・ソフトウェア

■ハードウェア　■ソフトウェア

MLComponent をご使用いただくには、次のハードウェアとソフトウェアが必要です。

## ■ハードウェア

下記対応 OS が動作する環境

10MB 以上の空き容量を持つハードディスク

弊社ラベルプリンタ

## ■ソフトウェア

| | |
|---|---|
| 対応 OS*1 | Windows 11、Windows Server 2025、Windows Server 2022、Windows Server 2019、Windows Server 2016 |
| 実行環境*2 | .NET Framework 4.8、.NET 10(.NET Framework 互換モード) |
| 稼動確認済み開発ツール | Visual Studio 2026 (Visual Basic、C#)、Visual Studio 2022 (Visual Basic、C#)、Visual Studio 2019 (Visual Basic、C#)<br>Excel VBA、Access VBA |

*1 32bit、64bit の両方で動作します。ARM 版 Windows はサポート対象外です。

*2 Microsoft でサポートされているバージョンを推奨します。

https://docs.microsoft.com/ja-JP/lifecycle/faq/dotnet-framework

https://learn.microsoft.com/ja-jp/lifecycle/products/microsoft-net-and-net-core

## ■レイアウトファイル

ラベル発行に使用するレイアウトファイルの作成、編集には別途 MLV6 が必要です。

MLV5 で作成されたレイアウトファイルもご利用いただけます。

## ■サポートプリンタ

MLV6 の対応プリンタに従います。

# 1-2 MLComponent 機能一覧

■プロパティ　■メソッド

MLComponent で利用できるプロパティ・メソッド・例外の一覧を記載します。

## ■プロパティ一覧

| プロパティ名 | 概要 | 初期値 |
|---|---|---|
| **通信設定** | | |
| Setting | 通信パラメータの設定 | LAN:127.0.0.1 |
| Protocol | 通信プロトコルの設定 | 0（ステータス 3） |
| Timeout | 通信タイムアウト値の設定 | 3 |
| StatusID | ステータスＩＤの設定 | 0 |
| JobName | ジョブ名の設定 | ″″（空文字） |
| **基本設定** | | |
| LayoutFile | レイアウトファイルの設定 | Default.mllayx |
| PrnData | 印字データの設定 | ″″（空文字） |
| PrnDataType | 印字データタイプの設定 | Tsv |
| **プリンタ動作設定** | | |
| Darkness | 印字濃度の設定 | S（レイアウト依存） |
| Speed | 印字速度の設定 | S（レイアウト依存） |
| Offset | 印字補正値の設定 | 0.0000,0.0000 |
| MultiCut | カット指定の設定 | 0（カットしない） |
| SortMark | 仕分けマーク印字の設定 | False（印字しない） |
| EjectCut | 排出カットの設定 | False（カットしない） |
| HeaderTailSetting | ヘッダ・テール札の設定 | False（印字しない） |
| HeaderFile | ヘッダ札の取得 | ″″（空文字） |
| TailFile | テール札の取得 | ″″（空文字） |
| **特殊設定** | | |
| Formoverlay | フォームオーバーレイの設定 | 0（使用しない） |
| LayoutNameCaption | 「レイアウト名」の設定 | ″″（空文字） |
| TotalQtyCaption | 「総発行枚数」の設定 | 0 |
| TaxRate | 税率の設定 | ″″（空文字） |
| **バージョン情報** | | |
| Version | バージョン情報の取得 | ― |

■メソッド一覧

| メソッド名 | 概要 |
|---|---|
| **通信** | |
| OpenPort | 通信ポートのオープン |
| ClosePort | 通信ポートのクローズ |
| **発行** | |
| Output | ラベル発行 |
| OutputHeader | ヘッダ札発行 |
| OutputTail | テール札発行 |
| SendStringData | プリンタコマンドの送信(終了条件指定) |
| SendRawData | プリンタコマンド（バイナリ）の送信(終了条件指定) |
| **プリンタ制御** | |
| GetStatus | プリンタの状態確認 |
| Cut | 発行中のカット |
| SendCancel | 発行のキャンセル |
| **レイアウト情報取得** | |
| GetPrinter | プリンタ情報の取得 |
| **印字データ指定** | |
| GetInputFields | 入力情報の取得 |
| SetPrnDataField | 入力項目の印字データ設定 |
| GetPrnDataArray | 複数データの取得 |
| SetPrnDataArray | 複数データの設定 |
| **デバイス制御** | |
| EnumerateBluetoothDevices | デバイス検索の実行 |
| AuthenticateBluetoothDevice | デバイス認証の実行 |

# 第２章

# プロパティ

## 2-1 [通信]Setting プロパティ

通信パラメータを設定、取得します。

■書式

MLComponent.Setting As String

■設定値

| 出力先 | *Setting* | |
|---|---|---|
| | 説明 | |
| 初期値 | LAN:127.0.0.1 | |
| LAN 接続プリンタ | LAN:aaa.aaa.aaa.aaa[,Port1][,Port2] | |
| | aaa.aaa.aaa.aaa | IP アドレス |
| | [,Port1] | ポート番号 1[省略可] |
| | [,Port2] | ポート番号 2[省略可] |
| USB 接続プリンタ | USB:[SerialNumber] | |
| | [SerialNumber] | シリアル No.[省略可] |
| RS-232C 接続プリンタ | COMnnn:bbbbb,p,d,s | |
| | nnn | ポート番号（1～256） |
| | bbbbb | ボーレート（4800～115200） |
| | p | パリティビット（n：なし、e：偶数、o：奇数） |
| | d | データビット（7、8） |
| | s | ストップビット（1、1.5、2） |
| Bluetooth 接続プリンタ | BT:BDAddress | |
| | BDAddress | BD アドレス（12 桁の 16 進数） |
| プリンタドライバ | DRV:Drivername | |
| | Drivername | プリンタドライバ名称 |
| ファイル | FILE:Filename,m | |
| | Filename | ファイル名称 |
| | m | 出力モード（0：上書き、1：追加） |

■解説

- インターフェース毎の利用方法は利用方法・注意事項をご参照ください。

- １台のプリンタに対してインターフェース出力（LAN、USB、COM、Bluetooth）とプリンタドライバ出力を切り換えて接続しないでください。二重接続が発生し、エラーとなる可能性があります。

- LAN 指定時、ポート番号には通常「1024」または「9100」を指定してください。
  例）MLComponent.Setting = “LAN:192.168.1.1,1024”
  例）MLComponent.Setting = “LAN:192.168.1.1,9100”

  Protocol プロパティが「Status3」の場合、指定されたポート番号による 1 ポート接続を行います。
  ポート番号を省略した場合、1024 番ポートを使用します。

  Protocol プロパティが「Status4」の場合、指定されたポート番号による 1 ポート接続もしくは 2 ポート接続を行います。
  「1024」指定時、1024 番と 1025 番ポートを使用した 2 ポート接続を行います。
  「9100」指定時、9100 番ポートを使用した 1 ポート接続を行います。
  ポート番号を省略した場合、1024 番と 1025 番ポートを使用した 2 ポート接続を行います。

  プリンタの TCP ポート番号を「1024」「9100」以外の番号に変更している場合は、プリンタの設定値に合わせてください。

- USB 指定の場合、接続台数が 1 台の場合は「USB:」で指定してください。
  また、2 台以上接続して利用する場合は「USB:（シリアル No.）」を指定してください。
  [シリアル No.]の確認方法は利用方法・注意事項をご参照ください。

**■例外**

| 例外 | 説明 |
|---|---|
| InvalidOperationException | 条件：ポートオープン中にプロパティを変更<br>The communication parameter cannot be changed when the port is opened. |

■使用例

COM ポート 1 に通信設定 9600,n,8,1 の場合

```
MLComponent.Setting = "COM1:9600,n,8,1"
```

IP アドレス 192.168.1.1、ポート番号 1024 の場合

```
MLComponent.Setting = "LAN:192.168.1.1,1024"
```

プリンタドライバ名「SATO CL4NX-J 305dpi」の場合

```
MLComponent.Setting = "DRV:SATO CL4NX-J 305dpi"
```

ファイル「C:¥My Documents¥Printout.prn」に上書きモードで出力する場合

```
MLComponent.Setting = "FILE:C:¥My Documents¥Printout.prn,0"
```

USB の場合

```
MLComponent.Setting = "USB:"
```

Bluetooth の場合

```
MLComponent.Setting = " BT:000b5d3db4c2"
```

■関連項目

プロパティ　Protocol、Timeout

メソッド　OpenPort、Output、GetStatus、SendStringData、SendRawData、EnumerateBluetoothDevices

■サポート情報

注意事項　インターフェースについて

付録　プリンタ本体の通信プロトコル設定方法

## 2-2 [通信]Protocol プロパティ

通信プロトコルを設定、取得します。

**■書式**

MLComponent.Protocol As Integer / SATO.MLComponent.Protocols

**■設定値**

| *Protocol* | 説明 |
|---|---|
| 0 - Protocols.Status3（初期値） | ステータス３<br>ステータスＬ（LR 専用） |
| 1 - Protocols.Status4 | ステータス４ |

**■解説**

- プリンタ本体の通信プロトコルの設定に合わせてください。
- OpenPort メソッド成功後（通信ポートがオープン中）に変更すると例外が発生します。
- 通信プロトコルのステータス５には対応しておりません。
- Setting プロパティが LAN、USB、COM、BT（Bluetooth）の場合に使用します。DRV（プリンタドライバ）、FILE では使用されません。
- Setting プロパティが USB の場合は、「1 - Protocols.Status4」を指定してください。
  「1 - Protocols.Status4」以外を指定した場合は、OpenPort メソッドでエラー12 となります。

**■例外**

| 例外 | 説明 |
|---|---|
| InvalidOperationException | 条件：ポートオープン中にプロパティを変更<br>The value of Protocol property cannot be changed when the port is opened. |
| ArgumentOutOfRangeException | 条件：範囲外の設定値<br>The value of Protocol property is invalid. |

**■使用例**

ステータス４を設定します。

```
MLComponent.Protocol = 1
```

現在の通信プロトコルを取得します。

```
Protocol = MLComponent.Protocol
```

■関連項目

プロパティ　Setting、Timeout

メソッド　OpenPort、Output、GetStatus、Cut、SendCancel、SendStringData、SendRawData

■サポート情報

注意事項　インターフェースについて

付録　プリンタ本体の通信プロトコル設定方法

## 2-3 [通信]Timeout プロパティ

通信タイムアウト値を設定、取得します。

**■書式**

MLComponent.Timeout As Integer

**■設定値**

| *Timeout* | 説明 |
|---|---|
| 3 | 初期値 |
| 任意数値 | 接続・送信・受信時の通信タイムアウト時間の秒指定（1～60） |

**■解説**

- Setting プロパティが LAN、USB、COM、BT（Bluetooth）の場合に使用します。
  DRV（プリンタドライバ）、FILE では使用されません。
- OpenPort メソッド成功後（通信ポートがオープン中）に変更すると例外が発生します。
- タイムアウトは以下のメソッドで適用されます。

| メソッド | 説明 |
|---|---|
| OpenPort | Setting プロパティが LAN、Bluetooth で接続先が見つからない場合にポートオープンエラーとなります。 |
| Output | Protocol プロパティがステータス 3 の場合、プリンタから ACK/NAK 返送がない場合に受信タイムアウトとなります。 |
| GetStatus | プリンタからステータスの返送がない場合に受信タイムアウトとなります。 |
| Cut | プリンタから ACK/NAK 返送がない場合に受信タイムアウトとなります。 |
| SendCancel | |
| SendStringData | メソッドで指定した終了条件に一致しない場合、受信タイムアウトとなります。 |
| SendRawData | |

**■例外**

| 例外 | 説明 |
|---|---|
| InvalidOperationException | 条件：ポートオープン中プロパティを変更<br>The value of Timeout property cannot be changed when the port is opened. |
| ArgumentOutOfRangeException | 条件：範囲外の設定値<br>The value of Timeout property is invalid. This property must be within the range from 1 to 60. |

■使用例

通信タイムアウトの設定例を示します。

```
Dim Result As Integer
MLComponent.Setting = "COM1:9600,n,8,1"　　‘ 通信設定のイニシャル
MLComponent.Timeout = 5　　‘ タイムアウト値を５秒に設定
Result = MLComponent.OpenPort(1)　　‘ ポートオープン
If Result <> 0 Then
　　‘ エラー処理
End If
```

■関連項目

プロパティ　Setting、Protocol

メソッド　OpenPort、Output、GetStatus、SendStringData、SendRawData

## 2-4 [通信]StatusID プロパティ

ステータス ID を設定・取得します。

**■書式**

MLComponent.StatusID As Integer

**■設定値**

| *StatusID* | 説明 |
|---|---|
| 0 | 初期値 |
| 任意数値 | ステータス ID に設定する数値（0～99） |

**■例外**

| 例外 | 説明 |
|---|---|
| ArgumentOutOfRangeException | 条件：範囲外の設定値<br>The value of StatusID property is invalid. This property must be within the range from 0 to 99. |

**■使用例**

ステータス ID の運用例を示します。

```
Dim Result As Integer
Dim Status As String
MLComponent.StatusID = 36                ‘ ステータス ID に 36 をセット
Result = MLComponent.Output()            ‘ 発行処理
Result = MLComponent.GetStatus(Status)   ‘ ステータス取得
  If Left$(Status, 2) = "36" Then
      ‘ ステータス ID が 36 の場合
  End If
End Sub
```

**■関連項目**

プロパティ　Protocol、JobName

メソッド　Output、GetStatus

## 2-5 [通信]JobName プロパティ

ジョブ名を設定・取得します。

**■書式**

MLComponent.JobName As String

**■設定値**

| *JobName* | 説明 |
|---|---|
| 空文字 | 初期値 |
| 任意文字列 | ジョブ名に設定する文字列 |

**■解説**

- Protocol プロパティが 1 - Protocols.Status4 の場合に使用します。

**■例外**

| 例外 | 説明 |
|---|---|
| ArgumentException | 条件：範囲外の設定値<br>The value of JobName property is invalid. The length of this property must be within 16 bytes. |

**■使用例**

ジョブ名の運用例を示します。

```
Dim Result As Integer
Dim Status As String
Dim JobName As String
MLComponent.JobName = "SATO Print"          ‘ ジョブ名をセット
Result = MLComponent.Output()               ‘ 発行処理
Result = MLComponent.GetStatus(Status)      ‘ ステータス取得
JobName = Status.Substring(8, 16)
 If RTrim(JobName) = " SATO Print " Then
      ‘ ジョブ名が SATO Print の場合
 End If
```

**■関連項目**

プロパティ　Protocol、StatualID

メソッド　Output、GetStatus

## 2-6 [基本]LayoutFile プロパティ

MLV6 で作成したレイアウトファイルを設定・取得します。

**■書式**

MLComponent.LayoutFile As String

**■設定値**

| *LayoutFile* | 説明 |
|---|---|
| Default.mllayx | 初期値 |
| 任意文字列 | レイアウトファイルのローカル ファイル パス |

**■解説**

- レイアウトファイル（*.mllayx）のみ使用可能です。
- 値を設定すると、PrnData プロパティ、SetPrnDataField メソッド、SetPrnDataArray メソッドで指定した入力データはすべて初期化されます。

**■例外**

| 例外 | 説明 |
|---|---|
| ArgumentException | 条件：不正な設定値<br>The value of LayoutFile property is invalid. |

**■使用例**

レイアウトファイルパスを設定します。

```
MLComponent.LayoutFile = "C:¥SATO¥ABC.mllayx"
```

現在のレイアウトファイルパスを取得します。

```
LayoutFile = MLComponent.LayoutFile
```

**■関連項目**

プロパティ　PrnData、Darkness、Speed、HeaderTailSetting、Formoverlay、HeaderFile、TailFile

メソッド　Output、GetInputFields、SetPrnDataField、GetPrinter

## 2-7 [基本]PrnData プロパティ

印字データを設定、取得します。

### ■書式

MLComponent.PrnData As String

### ■設定値

| *PrnData* | 説明 |
|---|---|
| 空文字 | 初期値 |
| 任意文字列 | PrnDataType プロパティのデータ形式で指定します。 |

### ■解説

- バーコードにチェックデジットを含めたデータを指定する際は、チェックデジットが正しいかお客様のアプリケーションで必ずチェックした上で指定してください。チェックが出来ない場合は、チェックデジットを含まないデータに変更するか、変数の設定でチェックデジット部分を取り除くようにレイアウトファイルを変更してください。
- 発行枚数は、最大 999999（PW208 を除くラパンシリーズは 9999）まで指定可能です。
- データの項目数は、レイアウトファイルの入力項目数に合わせて指定してください。
- LayoutFile プロパティを設定した時点で PrnData プロパティは初期化されます。
- 値を設定すると、SetPrnDataArray メソッドで設定した入力データは初期化されます。
- SetPrnDataField メソッドと併用する場合は、混乱を避けるため PrnData プロパティを先に指定してください。
- PrnDataType プロパティで指定された形式の区切り文字はデータとして設定しないでください。例として、PrnDataType プロパティが「タブ区切り」の場合に、データ内にタブ（0x09）を入力すると、入力項目の入力順がずれて不正な入力データとなります。
- QR コード等のバーコードデータに制御コードを含める場合は、レイアウトの入力変数種類を「16 進文字コード」に設定し、上位アプリからは 16 進文字列のデータをセットしてください。（例：12345<TAB>の場合、「313233343509」をセット）
- Setting プロパティが DRV（プリンタドライバ）以外の場合は、連番変数や多面取りを使用しているレイアウトファイルで、1 シート以上にならない発行枚数を指定してください。
  1 シート以上となる発行枚数を指定した場合は、Output メソッドでエラー804 となります。
- 文字列を任意の場所で改行する場合は、文字オブジェクトで Windows フォント(WPF)またはプリンタフォントを指定し、詳細設定で「強制改行記号」に設定した文字を改行用の記号として入力してください。

### ■使用例

印字データを設定します。

```
MLComponent.PrnDataType = PrnDataTypes.Tsv
MLComponent.PrnData = "1000" & Chr$(9) & "2000" & Chr$(9) & "1"
```

■関連項目

プロパティ　LayoutFile、PrnDataType

メソッド　Output、GetInputFields、SetPrnDataField、GetPrnDataArray、SetPrnDataArray

■サポート情報

［別紙］テクニックマニュアル　「印字データの設定方法」

## 2-8 [基本]PrnDataType プロパティ

印字データのタイプ(Tsv/Csv/Prn)を設定、取得します。

**■書式**

MLComponent.PrnDataType As String / SATO.MLComponent.PrnDataTypes

**■設定値**

| *PrnDataType* | 説明 |
|---|---|
| 0 - PrnDataTypes.Tsv(初期値) | タブ区切り指定 |
| 1 - PrnDataTypes.Csv | カンマ区切り指定（CSV 形式） |
| 2 - PrnDataTypes.Prn | スペース区切り |

**■解説**

- QR コード等のバーコードデータに制御コードを含める場合は、レイアウトの入力変数種類を「16 進文字コード」に設定し、上位アプリからは 16 進文字列のデータをセットしてください。（例：12345<TAB>の場合、「313233343509」をセット）。

**■例外**

| 例外 | 説明 |
|---|---|
| ArgumentOutOfRangeException | 条件：範囲外の設定値<br>The value of PrnDataType property is invalid. |

**■使用例**

印字データのタイプに TSV を設定します。

```
MLComponent.PrnDataType = 0
```

**■関連項目**

プロパティ　PrnData

メソッド　SetPrnDataField、GetPrnDataArray、SetPrnDataArray

## 2-9 [動作]Darkness プロパティ

印字濃度を設定・取得します。

**■書式**

MLComponent.Darkness As String

**■設定値**

| *Darkness* | 説明 |
|---|---|
| 空文字列 | プリンタ本体に登録された設定値を使用 |
| S（初期値） | レイアウト情報の印字濃度を使用 |
| 印字濃度レベル[,印字濃度レンジ] | 印字濃度レベル、印字濃度レンジをカンマ区切りで指定<br>（印字濃度レンジは省略可能） |

**■ポイント**

- 「S」でレイアウトに設定がない場合、プリンタに登録された設定値が有効になります。
- 印字濃度レンジは通常設定する必要はございません。2 色サーマル用紙など特殊な用紙を使用する際に弊社の担当販売員よりご説明致します。
- GN412T の両面レイアウトは、両面の印字濃度が指定した値となります。

**■例外**

| 例外 | 説明 |
|---|---|
| ArgumentOutOfRangeException | 条件：範囲外の設定値<br>The value of Darkness property is invalid. |
| ArgumentException | 条件：不正な設定値<br>The value of Darkness property is invalid. This property must be alphanumeric. |

**■使用例**

印字濃度レベルに 3、印字濃度レンジに A を設定します。

```
MLComponent.Darkness = "3,A"
```

レイアウト情報の印字濃度を使用します。

```
MLComponent.Darkness = "S"
```

現在の印字濃度プロパティの設定値を取得します。

```
Dark = MLComponent.Darkness
```

■関連項目

プロパティ　Speed、Offset

メソッド　Output

■サポート情報

付録　サポートプリンタ

## 2-10 [動作]Speed プロパティ

印字速度を設定・取得します。

### ■書式

MLComponent.Speed As String

### ■設定値

| *Speed* | 説明 |
|---|---|
| 空文字列 | プリンタ本体に登録された設定値を使用 |
| S（初期値） | レイアウト情報の印字速度を使用 |
| 任意文字列 | 設定値を使用 |

### ■解説

- 「S」でレイアウトに設定がない場合、プリンタに登録された設定値が有効になります。

### ■例外

| 例外 | 説明 |
|---|---|
| ArgumentOutOfRangeException | 条件：範囲外の設定値<br>The value of Speed property is invalid. The length of this property must be within 2 bytes. |
| ArgumentException | 条件：不正な設定値<br>The value of Speed property is invalid. This property must be alphanumeric. |

### ■使用例

印字速度に 5 を設定します。

```
MLComponent.Speed = "5"
```

レイアウトファイルの印字速度を使用します。

```
MLComponent.Speed = "S"
```

現在の印字速度プロパティの設定値を取得します。

```
Speed = MLComponent.Speed
```

### ■関連項目

プロパティ　Darkness、Offset

メソッド　Output

■サポート情報

付録　　サポートプリンタ

## 2-11 [動作]Offset プロパティ

印字補正を設定・取得します。

**■書式**

MLComponent.Offset As String

**■設定値**

| *Offset* | 説明 |
|---|---|
| 0,0 | 初期値 |
| S,S | レイアウト情報の印字補正を使用 |
| 横補正値,縦補正値 | 横・縦の補正値をカンマ区切りで mm 単位指定（-99.9～99.9）<br>小数点以下 4 桁まで有効 |

**■解説**

- 「S,S」でレイアウトに設定がない場合、プリンタに登録された設定値が有効になります。
- 印字補正を行うと、プリンタの印字領域をオーバーする、ラベルから文字がはみ出るなどの可能性があります。Output メソッドで以下のエラーが発生する可能性があり注意が必要です。
  - 610　用紙に印字できない項目が存在します。
  - 611　計算できない無効な項目が存在します。

**■例外**

| 例外 | 説明 |
|---|---|
| ArgumentOutOfRangeException | 条件：範囲外の設定値<br>The value of Offset property is invalid. This property must be within the range from -99.9 to 99.9. |

**■使用例**

印字位置を横に 3mm、縦に 2mm 補正して発行します。

```
MLComponent.Offset = "3.0,2.0"　　‘ 印字補正値セット
```

レイアウト情報の印字補正値を使用します。

```
MLComponent.Offset = "S,S"　　‘ 印字補正値セット
```

**■関連項目**

プロパティ　Darkness、Speed

メソッド　Output

## 2-12 [動作]MultiCut プロパティ

カット単位枚数を設定・取得します。

**■書式**

MLComponent.MultiCut As Integer

**■設定値**

| *MultiCut* | 説明 |
|---|---|
| 0（初期値） | カットしない |
| 1 以上 | 指定枚数でカットする(1～9999) |
| -1 | プリンタ本体の動作モードに従う |
| -2 | レイアウトの設定に従う |

**■解説**

- 発行枚数が指定枚数に満たない場合、発行終了時にカットします。

  （例）　MultiCut プロパティが「5」、発行枚数が「3」　⇒　３枚目でカット

  　　MultiCut プロパティが「5」、発行枚数が「7」　⇒　５枚目と７枚目でカット

- 「-2」を指定した場合は、レイアウト設定および印字データの指定方法により下記の動作となります。

| PrnData でデータを指定する場合 | |
|---|---|
| 発行時動作設定（発行動作）「仕分けマークの印字、またはカット動作のタイミング」 | |
| なし(プリンタの設定に従う) | プリンタ本体の動作モードに従います。 |
| 行わない | カットを行いません。排出カットはレイアウトの発行時動作設定の「排出カットを使用する」に従って行います。 |
| 行ごとに行う | 最後のラベルのみカットします。排出カットはレイアウトの発行時動作設定の「排出カットを使用する」に従って行います。 |
| ページごとに行う | |
| 該当する項目の値が変わるごとに行う | |
| 発行指示単位ごとに行う | |
| 指定した枚数ごとに行う | MultiCut「1 以上」と同じ動作 |
| PrnDataArray でデータを指定する場合 | |
| 発行時動作設定（発行動作）「仕分けマークの印字、またはカット動作のタイミング」 | |
| なし(プリンタの設定に従う) | プリンタ本体の動作モードに従います。 |
| 行わない | カットを行いません。排出カットはレイアウトの発行時動作設定の「排出カットを使用する」に従って行います。 |
| 行ごとに行う | 配列要素ごとにカットします。排出カットはレイアウトの発行時動作設定の「排出カットを使用する」に従って行います。 |
| ページごとに行う | 最後のラベルのみカットします。排出カットはレイアウトの発行時動作設定の「排出カットを使用する」に従って行います。 |
| 該当する項目の値が変わるごとに行う | 仕分け・カット動作キーに設定されている入力項目が変 |

| | |
|---|---|
| | わるごとにカットします。排出カットはレイアウトの発行時動作設定の「排出カットを使用する」に従って行います。 |
| 発行指示単位ごとに行う | 最後のラベルのみカットします。排出カットはレイアウトの発行時動作設定の「排出カットを使用する」に従って行います。 |
| 指定した枚数ごとに行う | MultiCut「1 以上」と同じ動作 |

- レイアウトファイルで連番変数を使用している場合は、MultiCut プロパティは利用できません。Cut メソッドでカット動作の制御を行ってください。
- 詳細な利用方法は、別紙「**MLComponent テクニックマニュアル**」の[カット動作を制御する]をご参照ください。

**■例外**

| 例外 | 説明 |
|---|---|
| ArgumentOutOfRangeException | 条件：範囲外の設定値<br>The value of MultiCut property is invalid. This property must be within the range from -2 to 9999. |

**■使用例**

発行時に 3 枚単位でカットします。

```
Dim Result As Integer
MLComponent.MultiCut = 3          ' 3 枚単位でカット
Result = MLComponent.Output()     ' 発行処理
If Result <> 0 Then
    ' エラー処理
End If
```

**■関連項目**

プロパティ　LayoutFile、EjectCut
メソッド　Output、Cut

**■サポート情報**

付録　サポートプリンタ

# 2-13 SortMark プロパティ

仕分けマークの印字を設定、取得します。

**■書式**

MLComponent.SortMark As Boolean

**■設定値**

| *SortMark* | 説明 |
|---|---|
| True | 仕分けマークを印字する |
| False（初期値） | 仕分けマークを印字しない |

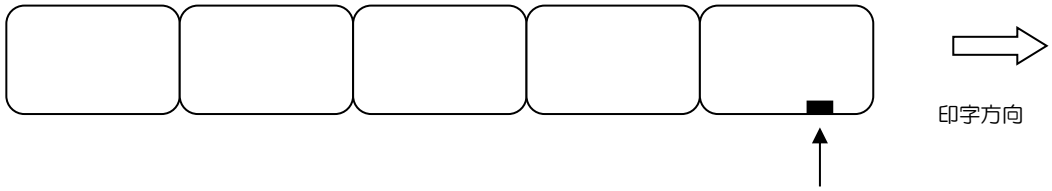
**■解説**

- レイアウト情報の仕分けマーク印字設定は使用されません。

**■使用例**

仕分けマークを印字します。

```
Dim Result As Integer
MLComponent.SortMark = True      ‘ 仕分けマークON
Result = MLComponent.Output()    ‘ 発行処理
If Return <> 0 Then
```




一発行単位の先頭のタグに印をつけます　　仕分けマーク
スタッカをセットするとより効果的な運用が可能です。

**■参照**

・関連項目

プロパティ　LayoutFile
メソッド　Output

・サポート情報

付録　サポートプリンタ

## 2-14 [動作]EjectCut プロパティ

排出カットを設定、取得します。

**■書式**

MLComponent.EjectCut As Boolean

**■設定値**

| *EjectCut* | 説明 |
|---|---|
| True | 排出カットを行う |
| False（初期値） | 排出カットを行わない |

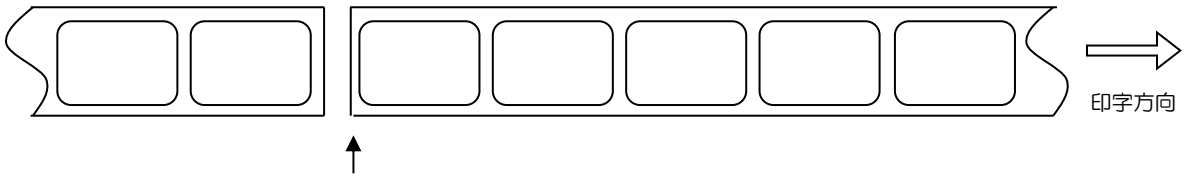
**■解説**

- MultiCut プロパティが「-1」または「-2」の場合、本プロパティは使用されません。
- シータシリーズ、レスプリシリーズは、プリンタの動作モードがパーシャルカットモードで、MultiCut プロパティが「0」の場合、排出カットが全カットになります。
- 詳細な利用方法は、別紙「**MLComponent テクニックマニュアル**」の[カット動作を制御する]をご参照ください。

**■使用例**

排出カットを行います。

```
Dim Result As Integer
MLComponent.EjectCut =True      ‘ 排出カットをONにします
Result = MLComponent.Output()   ‘ 発行処理
If Result <> 0 Then
```




EjectCut プロパティで「True」を設定すると一発行単位の末尾でカットします。
「False」を設定すると排出カットコマンドは送信されません。

**■関連項目**

プロパティ　MultiCut
メソッド　Output、Cut

**■サポート情報**

付録　サポートプリンタ

## 2-15 [動作]HeaderTailSetting プロパティ

ヘッダ・テール札の印字有無を設定・取得します。

**■書式**

MLComponent.HeaderTailSetting As Boolean

**■設定値**

| *HeaderTailSetting* | 説明 |
|---|---|
| True | レイアウトの設定に従いヘッダ・テール札を発行する |
| False（初期値） | ヘッダ・テール札を発行しない |

**■解説**

- 「True」を指定し、レイアウトの設定が「ページごとに出力する」に設定されている場合は、発行指示ごとにヘッダ・テール札を出力します。
- Setting プロパティが DRV（プリンタドライバ）以外の場合は、本プロパティは無効となります。

**■使用例**

レイアウトの設定に従いヘッダ・テール札を発行します。

```
Dim Result As Integer
Dim PrnDataArray(0 to 3) As String
MLComponent.LayoutFile = "C:¥SATO¥ABC.mllayx"
PrnDataArray(0) = "商品 A" & Chr$(9) & "1"
PrnDataArray(1) = "商品 B" & Chr$(9) & "2"
PrnDataArray(2) = "商品 C" & Chr$(9) & "1"
PrnDataArray(3) = "商品 D" & Chr$(9) & "1"
Result = MLComponent.SetPrnDataArray(PrnDataArray)        ‘ 複数データを設定
If Result <> 0 Then
  //設定エラー
End If
MLComponent.HeaderTailSetting = 1          ‘ レイアウトの設定に従いヘッダ・テール札を発行
Result = MLComponent.Output()              ‘ 発行処理
If Result <> 0 Then
  //発行エラー
End If
```

**■関連項目**

プロパティ　Setting、LayoutFile、 PrnData

メソッド　Output、SetPrnDataArray

## 2-16 [動作]HeaderFile プロパティ

ヘッダ札ファイルを取得します。設定はできません。

### ■書式

MLComponent.HeaderFile As String

### ■設定値

| *HeaderFile* | 説明 |
|---|---|
| 文字列（パス名） | ヘッダ札ファイルのローカルファイルパス名 |
| 空文字 | 取得失敗<br>レイアウトファイルにヘッダ札が設定されていない |

### ■解説

- LayoutFile プロパティで設定されたレイアウトファイルから取得します。

### ■使用例

ヘッダ札を取得します。

```
Dim Result As Integer
Dim HeaderFile As String
HeaderFile = MLComponent.HeaderFile          ‘ ヘッダ札取得
If HeaderFile <> "" Then                     ‘ 取得OK？
    Debug.Print "HeaderFile = " & HeaderFile  ‘ ヘッダ札表示
```

### ■関連項目

プロパティ　LayoutFile、HeaderTailSetting、TailFile

メソッド　OutputHeader

## 2-17 [動作]TailFile プロパティ

テール札ファイルを取得します。設定はできません。

### ■書式

MLComponent.TailFile As String

### ■設定値

| *TailFile* | 説明 |
|---|---|
| 文字列（パス名） | テール札ファイルのローカルファイルパス名 |
| 空文字 | 取得失敗<br>レイアウトファイルにテール札が設定されていない |

### ■解説

- LayoutFile プロパティで設定されたレイアウトファイルから取得します。

### ■使用例

テール札を取得します。

```
Dim Result As Integer
Dim TailFile As String
TailFile = MLComponent.TailFile                ‘ テール札取得
If TailFile <> "" Then                         ‘ 取得OK？
    Debug.Print "TailFile = " &TailFile        ‘ テール札表示
```

### ■関連項目

プロパティ　LayoutFile、HeaderTailSetting、HeaderFile

メソッド　OutputTail

## 2-18 [特殊]Formoverlay プロパティ

フォームオーバーレイを設定・取得します。

### ■書式

MLComponent.Formoverlay As String / SATO.MLComponent.FormoverlayTypes

### ■設定値

| *Formoverlay* | 説明 |
|---|---|
| 0 - FormoverlayTypes.None（初期値） | フォームオーバーレイを使用しない |
| 1 - FormoverlayTypes.Save | フォームオーバーレイを登録する |
| 2 - FormoverlayTypes.Load | フォームオーバーレイを呼び出す |
| 3—FormoverlayTypes.Auto | 固定項目を自動登録して複数アイテムを発行する |

### ■解説

- 「1」で登録する対象は Output で出力される全てのデータです。また登録可能数は 1 つです。2 つ以上登録しても、最後に登録したデータが有効になります。
- 多面取りまたは両面レイアウトで「1」または「2」を設定した場合は、発行時にエラーとなります。

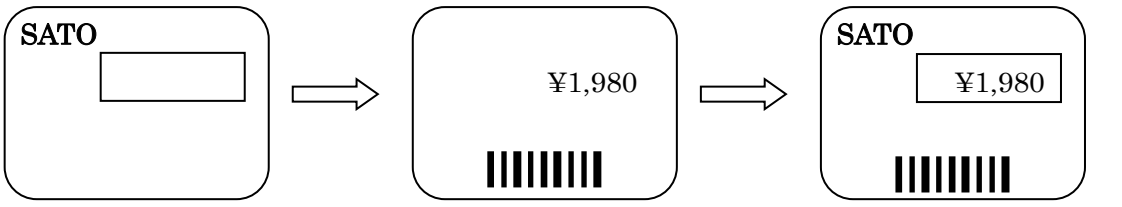
### ■例外

| 例外 | 説明 |
|---|---|
| ArgumentOutOfRangeException | 条件：範囲外の設定値<br>The value of Formoverlay　property is invalid. |

### ■使用例

フォームオーバーレイ登録後、フォームオーバーレイを呼び出します。

```
Dim Result As Integer
MLComponent.LayoutFile = "A.mllay"              ‘ レイアウト"A.mllay"をセット
MLComponent.Formoverlay = 1                     ‘ フォームオーバーレイを登録します
Return = MLComponent.Output()                   ‘ 発行処理（フォームオーバーレイの登録）
MLComponent.LayoutFile = "B.mllay"                  ‘ レイアウト"B.mllay"をセット
MLComponent.PrnData = "1980" & Chr$(9) & "1"        ‘ 印字データをセット
MLComponent.Formoverlay = 2                     ‘ フォームオーバーレイを呼び出します
Result = MLComponent.Output()                   ‘ 発行処理（フォームオーバーレイの呼出）
```




レイアウト A.mllay　　レイアウト B.mllay　　合成されたレイアウト

■関連項目

メソッド　Output

■サポート情報

付録　サポートプリンタ

## 2-19 [特殊]LayoutNameCaption プロパティ

「レイアウト名」を設定・取得します。

### ■書式

MLComponent.LayoutNameCaption As String

### ■設定値

| *LayoutNameCaption* | 説明 |
|---|---|
| 空文字（初期値） | LayoutFile プロパティに設定されているレイアウト名を使用 |
| 任意文字列 | 「レイアウト名」に設定する任意文字列 |

### ■解説

- MLV6 のシステム変数「レイアウト名」に値が適用されます。
- 「ローカル ファイル パス」指定の場合、ファイル名のみが「レイアウト名」になります。

### ■使用例

「レイアウト名」を設定します。

```
MLComponent.LayoutNameCaption = "C:¥SATO¥ABC.mllayx"
```

「レイアウト名」を取得します。

```
LayoutNameCaption = MLComponent.LayoutNameCaption
```

「レイアウト名」の印字結果は”ABC”となります。

### ■関連項目

プロパティ　TotalQtyCaption
メソッド　Output

## 2-20 [特殊]TotalQtyCaption プロパティ

「総発行枚数」を設定・取得します。

### ■書式

MLComponent.TotalQtyCaption As String

### ■設定値

| *TotalQtyCaption* | 説明 |
|---|---|
| 0（初期値） | Output メソッド実行時に、総発行枚数を自動計算 |
| 任意数値（0 以上） | システム変数「総発行枚数」を指定 |

### ■解説

- MLV6 のシステム変数「総発行枚数」に値が適用されます。

### ■例外

| 例外 | 説明 |
|---|---|
| ArgumentOutOfRangeException | 条件：範囲外の設定値<br>The value of TotalQtyCaption property is invalid. |

### ■使用例

総発行枚数キャプションを設定します。

```
MLComponent.TotalQtyCaption = 13
```

現在の総発行枚数キャプションを取得します。

```
TotalQtyCaption = MLComponent.TotalQtyCaption
```

### ■関連項目

プロパティ　LayoutFile
メソッド　Output

# 2-21 [特殊]TaxRate プロパティ

税率を設定・取得します。

**■書式**

MLComponent.TaxRate As String

**■設定値**

| *TaxRate* | 説明 |
|---|---|
| 未指定 | 初期値 |
| 任意文字列 | 税率 1～20 をカンマ区切りで指定（範囲:0～99.9） |

**■解説**

- レイアウトファイルで変数の編集パラメータで設定した税編集の「ユーザー税率」に使用されます。税編集で「固定税率」を指定している場合は使用されません。
- 値が設定されていない場合は、Output メソッドでエラー413 になります。
- 条件印字のデータ種類を「税率」に設定した場合に設定値が使用されます。

**■例外**

| 例外 | 説明 |
|---|---|
| ArgumentOutOfRangeException | 条件：範囲外の設定値(税率が 20 以上)<br>The value of TaxRate property is invalid. |
| | 条件：範囲外の設定値(0～99.9 の範囲外)<br>The value of TaxRate property is invalid. This property must be within the range from 0 to 99.9. |

**■使用例**

ユーザー税率 1=10.0、ユーザー税率 2=8.0 を設定します。

```
MLComponent.TaxRate ="10.0,8.0"
```

現在の税率を取得します。

```
Dim TaxRate As String
TaxRate = MLComponent.TaxRate
```

**■関連項目**

プロパティ　LayoutFile
メソッド　Output

## 2-22 [情報]Version プロパティ

バージョン情報を取得します。設定はできません。

### ■書式

MLComponent.Version As String

### ■設定値

| *Version* | 説明 |
|---|---|
| Multi LABELIST Component, Version x.x.x.x<br>（x：バージョン番号） | MLComponent のバージョン情報 |

### ■使用例

バージョン情報を取得します。

```
Dim Version As String
Version=MLComponent.Version
```

取得結果：″Multi LABELIST Component, Version 6.0.0.0″

# 第３章

# メソッド・例外

## 25 [通信]OpenPort メソッド

通信ポートをオープンします。

### ■書式

MLComponent.OpenPort(ByVal *SyncMode* As Integer) As Integer

### ■パラメータ

| パラメータ | 設定値 | 説明 |
|---|---|---|
| *SyncMode* | 1（固定） | 同期通信モード |

### ■戻り値

| 戻り値 | 説明 |
|---|---|
| 0 | 正常終了です。 |
| 1 | Setting プロパティの値が不正です。 |
| 3 | 既にオープンされています。 |
| 4 | ポートオープン時にエラーが発生しました。 |
| 12 | 通信設定と通信プロトコルの組み合わせが未サポートです。 |

### ■解説

- Setting プロパティで設定されたデバイスをオープンします。
- OpenPort 成功後は、Output メソッドで連続して発行することが可能です。Setting プロパティが LAN、USB、COM、Bluetooth の場合は、Output 実行前に毎回 GetStatus でプリンタの状態を確認してください。
- 戻り値「4」は、Setting プロパティで存在しないポート番号、IP アドレス、プリンタドライバ名を指定している場合や、指定した USB デバイスや Bluetooth デバイスが見つからない場合、プリンタが他のプログラムで使用されている場合、プリンタの電源が入っていない場合などに発生します。Setting プロパティの解説もご参照ください。
- Setting プロパティで Bluetooth を使用する場合は、Microsoft 標準の Bluetooth スタックのみ使用可能です。その他の Bluetooth スタックでは動作保証されていません。
- Setting プロパティで Bluetooth が設定されている場合は、指定した Bluetooth デバイスがペアリングされている必要があります。未ペアリングの場合には、PC 側に表示される Windows 標準の設定画面でペアリングを行ってください。設定画面表示中は OpenPort の処理が返送されません。設定画面は操作しないと 30～40 秒程でエラーとなり、OpenPort が戻り値「4」となります。
- 注意事項「インターフェースについて」を必ずご確認ください。

■使用例

通信ポートのオープンからクローズまでのプログラム例を示します。

```
Dim Result As Integer
MLComponent.Setting = "COM1:9600,n,8,1"          '  通信設定のイニシャル
Result = MLComponent.OpenPort(1)                 '  同期モードでポートオープン
If Result = 0 Then
    '  一連の出力処理
    Call MLComponent.ClosePort()                 '  ポートのクローズ
End If
```

■関連項目

プロパティ　Setting、Protocol、Timeout

メソッド　Output、GetStatus、Cut、SendCancel、OutputHeader、OutputTail、SendStringData、SendRawData、AuthenticateBluetoothDevice

# 3-2 [通信]ClosePort メソッド

通信ポートをクローズします。

■書式

MLComponent.ClosePort() As Integer

■戻り値

| 戻り値 | 説明 |
|---|---|
| 0 | 正常終了です。 |
| 5 | ポートがオープンされていません。 |
| 6 | ポートクローズ時にエラーが発生しました。 |

■使用例

通信ポートのオープンからクローズまでのプログラム例を示します。

```
Dim Result As Integer
MLComponent.Setting = "COM1:9600,n,8,1"          ‘ 通信設定のイニシャル
Result = MLComponent.OpenPort(1)                 ‘ 同期モードでポートオープン
If Result = 0 Then
        ‘ 一連の出力処理
    Call MLComponent.ClosePort()                 ‘ ポートのクローズ
End If
```

■関連項目

プロパティ　Setting

メソッド　OpenPort

## 3-3 [発行]Output メソッド

ラベル・タグを発行します。

**■書式**

MLComponent.Output() As Integer

**■戻り値**

| 戻り値 | 説明 |
|---|---|
| 0 | 正常終了です。 |
| 5 | ポートがオープンされていません。 |
| 11 | プリンタでエラーが発生しています（プリンタから NAK を受信しました）。<br>印字データはプリンタに送信されているため、エラー復旧後に発行される場合があります。<br>エラーの詳細は GetStatus メソッドで確認してください。<br>また、プリンタがスリープモードになっていると本エラーが発生する場合があります。<br>詳しくは「プリンタのスリープについて」を確認してください。 |
| 0 以外 | 「通信エラー」「発行エラー」をご参照ください。 |

**■解説**

- OpenPort 成功後は、Output メソッドで連続して発行することが可能です。
- Setting プロパティでプリンタドライバを指定する場合、Output メソッドで発行指示が完了したら必ず ClosePort メソッドを実行してください。OS の制限によりすぐにデータが送信されない場合があります。
- Setting プロパティで USB、LAN、COM、Bluetooth を指定する場合、出力メソッド（Output、SendStringData、SendRawData）を実行する前に GetStatus メソッドで必ずプリンタの状態をご確認下さい。
- Windows 10 以降では Output 実行時に画面が縮小される現象や Windows フォントの一部サイズが印字されない現象を確認しております。「高 DPI 設定について」を確認してください。
- 注意事項「インターフェースについて」を必ずご確認ください。

**■使用例**

連番印字を行います。

```
Dim Result As Integer
Const EndCount = 10
For n = 1 To EndCount                                   '  連番終了値までループ
    MLComponent.PrnData = Format$(n) & vbTab & "1"      '  印字データに連番をセット
      ' Setting プロパティが USB,LAN,COM,Bluetooth の場合は必須
      ' プリンタ状態を確認(GetStatus メソッド)
    Result = MLComponent.Output()                       '  発行処理
    If Result <> 0 Then
        ' エラー処理（通信エラー・発行エラーをご参照ください。）
```

```
    End If
Next n
```

**■関連項目**

| | |
|---|---|
| プロパティ | Setting、Protocol、Timeout |
| メソッド | GetStatus、Cut、SendCancel |

**■サポート情報**

| | |
|---|---|
| メソッド・例外 | 通信エラー |
| メソッド・例外 | 発行エラー |

# 3-4 [発行]OutputHeader メソッド

ヘッダ札を発行します。

■書式

MLComponent.OutputHeader() As Integer

■戻り値

| 戻り値 | 説明 |
|---|---|
| 0 | 正常終了です。 |
| 5 | ポートがオープンされていません。 |
| 11 | プリンタでエラーが発生しています（プリンタから NAK を受信しました）。<br>印字データはプリンタに送信されているため、エラー復旧後に発行される場合があります。<br>エラーの詳細は GetStatus メソッドで確認してください。<br>また、プリンタがスリープモードになっていると本エラーが発生する場合があります。<br>詳しくは「プリンタのスリープについて」を確認してください。 |
| 0 以外 | 「通信エラー」「発行エラー」をご参照ください。 |

■解説

- レイアウトファイルに設定されているヘッダ札を発行枚数の指定に関わらず 1 枚のみ発行します。
- ヘッダ札を発行する場合は、FormoverlayTypes プロパティの設定値は適用されません。

■使用例

先頭にヘッダ札を発行します。

```
Dim Result As Integer
Const EndCount = 10
For n = 1 To EndCount                                   '  連番終了値までループ
    MLComponent.PrnData = Format$(n) & vbTab & "1"      '  印字データに連番をセット
    If n = 1 Then
        Result = MLComponent.OutputHeader()             '  ヘッダ札発行
        If Result <> 0 Then
            ' エラー処理
        End If
    Endif
    Result = MLComponent.Output()                       '  発行処理
    If Result <> 0 Then
        ' エラー処理
    End If
Next n
```

■参照項目

| | |
|---|---|
| プロパティ | Setting、Protocol、Timeout、HeaderTailSetting、 HeaderFile、 TailFile |
| メソッド | GetStatus、Cut、SendCancel、OutputTail |

■サポート情報

| | |
|---|---|
| メソッド・例外 | 通信エラー |
| メソッド・例外 | 発行エラー |

# 3-5 [発行]OutputTail メソッド

テール札を発行します。

■書式

MLComponent.OutputTail() As Integer

■戻り値

| 戻り値 | 説明 |
|---|---|
| 0 | 正常終了です。 |
| 5 | ポートがオープンされていません。 |
| 11 | プリンタでエラーが発生しています（プリンタから NAK を受信しました）。<br>印字データはプリンタに送信されているため、エラー復旧後に発行される場合があります。<br>エラーの詳細は GetStatus メソッドで確認してください。<br>また、プリンタがスリープモードになっていると本エラーが発生する場合があります。<br>詳しくは「プリンタのスリープについて」を確認してください。 |
| 0 以外 | 「通信エラー」「発行エラー」をご参照ください。 |

■解説

- レイアウトファイルに設定されているテール札を発行枚数の指定に関わらず 1 枚のみ発行します。
- テール札を発行する場合は、FormoverlayTypes プロパティの設定値は適用されません。

■使用例

末尾にテール札を発行します。

```
Dim Result As Integer
Const EndCount = 10
For n = 1 To EndCount                                   '  連番終了値までループ
    MLComponent.PrnData = Format$(n) & vbTab & "1"      '  印字データに連番をセット
    Result = MLComponent.Output()                       '  発行処理
    If Result <> 0 Then
        ' エラー処理
    End If
    If n = EndCount   Then
        Result = MLComponent.OutputTail()               '  テール札発行
        If Result <> 0 Then
            ' エラー処理
        End If
    Endif
Next n
```

■参照項目

| | |
|---|---|
| プロパティ | Setting、Protocol、Timeout、HeaderTailSetting、 HeaderFile、 TailFile |
| メソッド | GetStatus、Cut、SendCancel、OutputHeader |

■サポート情報

| | |
|---|---|
| メソッド・例外 | 通信エラー |
| メソッド・例外 | 発行エラー |

## 3-6 [発行]SendStringData メソッド

終了条件を指定して、プリンタコマンド（SBPL）を送信します。

### ■書式

```
MLComponent.SendStringData(
                    ByVal Type As Integer
                    ByVal Command As String,
                    ByVal Length As Integer,
                    ByVal EndChar As String) As Object
```

### ■パラメータ

| パラメータ | 設定値 | 説明 |
|---|---|---|
| *Type* | 0 | 受信データをテキスト(String 型)で取得 |
| | 1 | 受信データをバイト配列で取得 |
| | 2 | 受信データを 16 進文字コード(String 型)で取得 |
| *Command* | 任意文字列 | 送信データ（プリンタコマンド）を文字列で指定 |
| *Length* | 任意数値 | 受信処理を終了するバイト数を指定 |
| *EndChar* | 任意キャラクタ | 受信処理を終了するキャラクタを指定 |

### ■戻り値

取得データ　設定値に応じたデータを返します。

### ■例外

詳細は「MLComponentException クラス」をご参照ください。

| 例外 | 説明 |
|---|---|
| 5 | ポートがオープンされていません。 |
| 7 | コマンド送信中にエラーが発生しました。 |
| 8 | コマンド送信中にタイムアウトが発生しました。 |
| 9 | 応答受信中にエラーが発生しました。 |
| 10 | 応答受信中にタイムアウトが発生しました。 |
| 54 | コマンド文字列が空です。 |
| 55 | カラープリンタドライバへの出力はできません。 |

### ■解説

- 終了条件の組み合わせ（Length、EndChar）による本メソッドの動作は以下となります。

| Length | EndChar | 説明 |
|---|---|---|
| 0 | 指定なし | コマンド送信後の受信は行いません。<br>戻り値は空文字(バイト配列の場合は要素数が 0)となります。 |
| 0 | 指定あり | EndChar で指定したキャラクタを受信するまで待機します。 |

| | | |
|---|---|---|
| 1 以上 | 指定なし | Length で指定したバイト数を受信するまで待機します。 |
| 1 以上 | 指定あり | Length で指定したバイト数を受信するか、指定されたキャラクタを受信するまで待機します。 |

- Setting プロパティが USB で Length に 1 以上を指定した場合は、1 バイト以上の受信がされるまで待機し、Length 以上または EndChar で指定したキャラクタが含まれるメッセージまで受信して戻り値に設定します。
- Setting プロパティが DRV（プリンタドライバ）または FILE の場合、Length および EndChar の終了条件は使用されません。
- 正常に送信できた場合エラーとはなりませんが、プリンタがどのような動作を行うかは送信したプリンタコマンドに依存します。不正なコマンドを送信した場合の動作については責任を負いかねますのでご了承ください。
- 終了条件が一致しない場合は、Timeout プロパティの指定時間で受信タイムアウトになります。
- 印字コマンドを送信する場合、1 アイテムとしてください。1 度に複数アイテムを送信した場合、2 つ目以降のアイテムに関してはデータ送信が保証されません。

**■使用例**

任意の制御コマンドをプリンタに送信します。

```
Dim RecvData As String
Dim Command() As Byte

   中略(コマンド生成)

Try
    RecvData = MLComponent.SendStringData(0, Command, 10, Chr$(&H15))‘ コマンド送信
    '  データ解析
Catch ex As MLComponentException
    If ex.Number = 5 Then
        ‘ ポートオープンエラー
    Else If ex.Number = 54 Then
        ‘ コマンド文字列エラー
    End If
End Try
```

**■関連項目**

プロパティ　Setting、Timeout
メソッド　SendRawData

**■サポート情報**

メソッド・例外　通信エラー
メソッド・例外　発行エラー

## 3-7 [発行]SendRawData メソッド

終了条件を指定して、プリンタコマンド（SBPL）をバイナリ形式で送信します。

### ■書式

```
MLComponent.SendRawData(
                        ByVal Type As Integer,
                        ByRef Command As byte(),
                        ByVal Length As Integer,
                        ByVal EndChar As String) As Object
```

### ■パラメータ

| パラメータ | 設定値 | 説明 |
|---|---|---|
| *Type* | 0 | 受信データをテキスト(String 型)で取得 |
| | 1 | 受信データをバイト配列で取得 |
| | 2 | 受信データを 16 進文字コード(String 型)で取得 |
| *Command* | 任意バイナリデータ | 送信データ（プリンタコマンド）をバイナリ形式で指定 |
| *Length* | 任意数値 | 受信処理を終了するバイト数を指定 |
| *EndChar* | 任意キャラクタ | 受信処理を終了するキャラクタを指定 |

### ■戻り値

取得データ　　設定値に応じたデータを返します。

### ■例外

詳細は「MLComponentException クラス」をご参照ください。

| 例外 | 説明 |
|---|---|
| 5 | ポートがオープンされていません。 |
| 7 | コマンド送信中にエラーが発生しました。 |
| 8 | コマンド送信中にタイムアウトが発生しました。 |
| 9 | 応答受信中にエラーが発生しました。 |
| 10 | 応答受信中にタイムアウトが発生しました。 |
| 55 | カラープリンタドライバへの出力はできません。 |
| 56 | コマンドの配列要素が存在しません。 |

### ■解説

- 終了条件の組み合わせ（Length、EndChar）による本メソッドの動作は以下となります。

| Length | EndChar | |
|---|---|---|
| 0 | 指定なし | コマンド送信後の受信は行いません。<br>戻り値は空文字(バイト配列の場合は要素数が 0)となります。 |
| 0 | 指定あり | EndChar で指定したキャラクタを受信するまで待機します。 |

| | | |
|---|---|---|
| 1 以上 | 指定なし | Length で指定したバイト数を受信するまで待機します。 |
| 1 以上 | 指定あり | Length で指定したバイト数を受信するか、指定されたキャラクタを受信するまで待機します。 |

- Setting プロパティが USB で Length に 1 以上を指定した場合は、1 バイト以上の受信がされるまで待機し、Length 以上または EndChar で指定したキャラクタが含まれるメッセージまで受信して戻り値に設定します。
- Setting プロパティが DRV（プリンタドライバ）または FILE の場合、Length および EndChar の終了条件は使用されません。
- 正常に送信できた場合エラーとはなりませんが、プリンタがどのような動作を行うかは送信したプリンタコマンドに依存します。不正なコマンドを送信した場合の動作については責任を負いかねますのでご了承ください。
- 終了条件が一致しない場合は、Timeout プロパティの指定時間で受信タイムアウトになります。
- 印字コマンドを送信する場合、1 アイテムとしてください。1 度に複数アイテムを送信した場合、2 つ目以降のアイテムに関してはデータ送信が保証されません。

**■使用例**

任意の制御コマンドをプリンタに送信します。

```
Dim RecvData As String
Dim Command As String

   中略(コマンド生成)

Try
    RecvData = MLComponent.SendRawData(0, Command, 10, Chr$(&H15))   ‘ コマンド送信
    '  データ解析
Catch ex As MLComponentException
    If ex.Number = 5 Then
        ‘ ポートオープンエラー
    Else If ex.Number = 54 Then
        ‘ コマンド文字列エラー
    End If
End Try
```

**■関連項目**

プロパティ　Setting、Timeout
メソッド　SendStringData

**■サポート情報**

メソッド・例外　通信エラー
メソッド・例外　発行エラー

## 3-8 [発行]GetStatus メソッド

プリンタの状態確認を行います。

### ■書式

MLComponent.GetStatus(ByRef *Status* As String) As Integer

### ■パラメータ

| パラメータ | 設定値 | 説明 |
|---|---|---|
| *Status* | ステータス文字列 | プリンタの状態を表すステータス文字列 |
| | 空文字 | 状態確認に失敗 |

### ■戻り値

| 戻り値 | 説明 |
|---|---|
| 0 | 正常終了です。 |
| 5 | ポートがオープンされていません。 |
| 55 | プリンタドライバ出力、ファイル出力では使用できません。 |
| 上記以外 | 「通信エラー」をご参照ください。 |

### ■使用例

プリンタのステータスを取得します。

```
Dim Result1, Result2 As Integer
Dim Status As String
Result1 = MLComponent.GetStatus(Status)    ‘ ステータス取得
If Result1 = 0 Then                        ‘ 取得OK？
    If Mid$(Status, 3, 1) = "A" Then       ‘ ステータスは受信待ち？
        Result2 = MLComponent.Output()     ‘ 発行処理
        If Return <> 0 Then
            ' エラー処理
        End If
    End If
End If
```

### ■関連項目

プロパティ　Setting、Protocol、Timeout
メソッド　OpenPort

### ■サポート情報

メソッド・例外　通信エラー
付録　ステータス一覧

## 3-9 [制御]Cut メソッド

用紙の排出カットを行います。

### ■書式

MLComponent.Cut() As Integer

### ■戻り値

| 戻り値 | 説明 |
|---|---|
| 0 | 正常終了です。 |
| 5 | ポートがオープンされていません。 |
| 11 | プリンタでエラーが発生しています（プリンタから NAK を受信しました）。<br>カットコマンドはプリンタに送信されているため、エラー復旧後にカットされる場合があります。エラーの詳細は GetStatus メソッドで確認してください。<br>また、プリンタがスリープモードになっていると本エラーが発生する場合があります。<br>詳しくは「プリンタのスリープについて」を確認してください。 |
| 53 | カットコマンドがサポートされていないプリンタ機種です。 |
| 0 以外 | 「通信エラー」をご参照ください。 |

### ■解説

- 印字動作終了後、用紙がカットされずに停止している状態の時に有効です。
- LayoutFile プロパティの指定後に本メソッドを実行してください。
- 詳細な利用方法は、別紙「**MLComponent テクニックマニュアル**」の[カット動作を制御する]をご参照ください。

### ■使用例

発行毎にカットを行います。

```
Dim Result As Integer
For n = 0 To 5
    Result = MLComponent.Output()        ‘ 発行処理
    If Result <> 0 Then
        Exit For                         ‘ 発行エラー
    End If
    Result = MLComponent.Cut()           ‘ カット処理
    If Result <> 0 Then
        Exit For                         ‘ カットエラー
    End If
Next n
```

■関連項目

| | |
|---|---|
| プロパティ | LayoutFile、MultiCut、EjectCut |
| メソッド | Output |

■サポート情報

| | |
|---|---|
| メソッド・例外 | 通信エラー |
| 付録 | サポートプリンタ |

# 3-10 [制御]SendCancel メソッド

発行のキャンセルを行います。

■書式

MLComponent.SendCancel() As Integer

■戻り値

| 戻り値 | 説明 |
|---|---|
| 0 | 正常終了です。 |
| 5 | ポートがオープンされていません。 |
| 11 | プリンタでエラーが発生しています（プリンタから NAK を受信しました）。<br>キャンセルコマンドはプリンタに送信されているため、エラー復旧後に発行がキャンセルされる場合があります。エラーの詳細は GetStatus メソッドで確認してください。<br>また、プリンタがスリープモードになっていると本エラーが発生する場合があります。<br>詳しくは「プリンタのスリープについて」を確認してください。 |
| 0 以外 | 「通信エラー」をご参照ください。 |

■解説

- 発行動作を終了させ、プリンタが受信しているデータをすべてクリアします。
  SendCancel 実行後は、500ms 以上経過してから次の Output メソッドを実行してください。

■使用例

発行エラーが発生した場合にキャンセルするか促します。

```
Dim Result1, Result2 As Integer
Result1 = MLComponent.Output()                    ‘ 発行処理
If Result1 <> 0 Then                              ‘ 発行エラー？
    If MsgBox("発行時にエラーが発生しました。キャンセルしますか？", vbOKCancel) = vbOK Then
        Result2 = MLComponent.SendCancel()        ‘ 発行のキャンセル
    End If
End If
```

■関連項目

プロパティ　Setting

メソッド　Output、SendStringData、SendRawData、GetStatus、Cut

■サポート情報

メソッド・例外　通信エラー

# 3-11 [情報]GetPrinter メソッド

レイアウトファイルからプリンタ情報を取得します。

## ■書式

MLComponent.GetPrinter() As String

## ■戻り値

| 戻り値 | 説明 |
|---|---|
| 文字列 | レイアウトファイルに設定されているプリンタ機種名 |
| 空文字 | 取得に失敗 |

## ■解説

- LayoutFile プロパティで設定されたレイアウトファイルから取得します。

## ■使用例

レイアウトファイル”C:¥SATO¥ABC.mllayx”のプリンタ機種を取得します。

```
Dim PrinterModel As String
MLComponent.LayoutFile = "C:¥SATO¥ABC.mllayx"    ‘ レイアウトファイル名をセット
PrinterModel = MLComponent.GetPrinter            ‘ プリンタ機種取得
If PrinterModel <> "" Then
        ‘ 正常に取得
Else
        ‘ 取得エラー
End If
```

## ■関連項目

プロパティ　LayoutFile

## ■サポート情報

付録　サポートプリンタ

# 3-12 [データ]GetInputFields メソッド

レイアウトファイルの入力情報を取得します。

■書式

MLComponent.GetInputFields
(ByRef *InputCount* As Integer, ByRef *InputStatus* As Object) As Integer

■パラメータ

| パラメータ | 設定値 | 説明 |
|---|---|---|
| *InputCount* | 数値参照型 | 入力項目数 |
| *InputStatus* | 文字列参照型 | 入力情報（2 次元配列） |

- *InputStatus* のフォーマット

  入力情報の各要素（レコード）はカンマ区切りの文字列で返します。

  ①項目名　　入力項目名称
  ②ヘッダ・行　　0（ヘッダ） / 1（行）
  ③表示位置　　Y(縦)X(横)H(高さ)W(幅)　単位:ピクセル
  ※行項目の場合、Y および X は 0 になります。
  ④桁数　　入力桁数
  ⑤入力許可　　0（入力可） / 1（入力不可） / 2（非表示）
  ⑥発行後削除　　0（OFF） / 1（ON）
  ⑦漢字入力　　0（OFF） / 1（ON）
  ⑧仕分・カット　　「0」OFF / 「1」ON
  ⑨入力チェック　　0（なし） / 1（数値） / 2（英字） / 3（英数字） / 4（半角）
  5（全角） / 10（日付） / 11（16 進） / 12（CODE39） / 13（NW-7）
  ⑩入力画面文字種　　P(ポイント数)N(フォント名)
  ⑪その他チェック　　0（なし） / 1（CD） / 2（テーブル） / 3（丸め） / 4（日付範囲）
  5（特殊） / 6（条件）
  ⑫初期値　　初期値文字列

■戻り値

| 戻り値 | 説明 |
|---|---|
| 0 | 正常終了です。 |
| 1 | レイアウト情報ファイルのロード時にエラーが発生しました。<br>・指定されたレイアウトファイルが存在しません。<br>・指定されたレイアウトファイルが開けません。<br>・該当する入力項目が存在しません。 |
| 61 | レイアウトファイルが MLComponent より新しいバージョンの MLV6 で作成されています。MLComponent のバージョンを更新してください。 |

**■解説**

- LayoutFile プロパティで設定されたレイアウトファイルから取得します。
- パラメータ InputStatus で取得できる入力情報の順番がレイアウトファイルの入力順です。PrnData で指定する項目順になります。
- 入力画面文字種は、ML デザインの入力定義で設定した入力項目の表示用文字種です。ラベル上の文字フォントではありません。

**■使用例**

入力情報を取得します。

```
Dim vInputStatus As Variant
Dim nInputCount As Integer
Dim n As Integer
Dim Result As Integer
Result = MLComponent.GetInputFields(nInputCount, vInputStatus)      ‘ 入力情報取得
If Result <> 0 Then
    Debug.Print "GetInputFields Error !! "                          ‘ エラーメッセージ表示
Else
    For n = 0 To nInputCount - 1
        Debug.Print vInputStatus(n)                                 ‘ 入力情報表示
    Next n
End If
```

- 出力結果（変数の入力順が①品番、②商品コード、③発行枚数の場合）

  品番,0,Y100X150H10W70,7,0,0,0,0,0,1, P12NMS Ｐゴシック,0,12345,
  商品コード,1,Y0X0H10W80,8,0,0,0,0,0,1,,P12NMS Ｐゴシック, 0,12345678
  発行枚数,1,Y0X0H10W50,6,0,0,0,0,0,0,,P12NMS Ｐゴシック,0,1

**■関連項目**

プロパティ　LayoutFile、PrnData
メソッド　SetPrnDataField

## 3-13 [データ]SetPrnDataField メソッド

指定した入力項目の印字データを設定します。

### ■書式

MLComponent.SetPrnDataField
(ByVal *Name* As String, ByVal *Data* As String) As Integer

### ■パラメータ

| パラメータ | 設定値 | 説明 |
|---|---|---|
| *Name* | 任意文字列 | 入力項目名称 |
| *Data* | 任意文字列 | 設定するデータ |

### ■戻り値

| 戻り値 | 説明 |
|---|---|
| 0 | 設定完了しました。 |
| 1 | レイアウト情報ファイルのロード時にエラーが発生しました。<br>・指定されたレイアウトファイルが存在しません。<br>・指定されたレイアウトファイルが開けません。<br>・該当する入力項目が存在しません。 |
| 61 | レイアウトファイルが MLComponent より新しいバージョンの MLV6 で作成されています。<br>MLComponent のバージョンを更新してください。 |

### ■解説

- 同一名称が複数存在する場合は、入力順で最初の入力項目のみに印字データを設定します。
- LayoutFile プロパティを設定した時点で、設定したデータはすべてクリアされます。
- バーコードにチェックデジットを含めたデータを指定する際は、チェックデジットが正しいかお客様のアプリケーションで必ずチェックした上で指定してください。チェックが出来ない場合は、チェックデジットを含まないデータに変更するか、変数の設定でチェックデジット部分を取り除くようにレイアウトファイルを変更してください。
- 発行枚数は、最大 999999（PW208 を除くラパンシリーズは 9999）まで指定可能です。
- PrnData プロパティと併用する場合は、混乱を避けるため PrnData プロパティを先に指定してください。
- PrnDataType プロパティで指定された形式の区切り文字はデータとして設定しないでください。例として、PrnDataType プロパティが「タブ区切り」の場合に、データ内にタブ（0x09）を入力すると、入力項目の入力順がずれて不正な入力データとなります。
- QR コード等のバーコードデータに制御コードを含める場合は、レイアウトの入力変数種類を「16 進文字コード」に設定し、上位アプリからは 16 進文字列のデータをセットしてください。（例：12345<TAB>の場合、「313233343509」をセット）
- 文字列を任意の場所で改行する場合は、文字オブジェクトで Windows フォント(WPF)またはプリンタフォントを指定し、詳細設定で「強制改行記号」に設定した文字を改行用の記号として入力してく

ださい。

**■使用例**

各入力名の位置に、印字データをセットします。

```
Dim Result As Integer
Result = MLComponent.SetPrnDataField("品番", "12-34")          ‘ 品番セット
If Result <> 0 Then
  //設定エラー
End If
Result = MLComponent.SetPrnDataField("商品 No", "012345")      ‘ 商品 No セット
If Result <> 0 Then
  //設定エラー
End If
Result = MLComponent.SetPrnDataField("取引先名", "サトー")      ‘ 取引先名セット
If Result <> 0 Then
  //設定エラー
End If

Result = MLComponent.SetPrnDataField("発行枚数", "1")          ‘ 発行枚数セット
If Result <> 0 Then
  //設定エラー
End If
```

**■関連項目**

プロパティ　LayoutFile、PrnData、PrnDataType

メソッド　Output、GetInputFields

# 3-14 [データ]GetPrnDataArray メソッド

複数データを取得します。

**■書式**

MLComponent.GetPrnDataArray() As String()

**■戻り値**

| | |
|---|---|
| null | 無効 |
| null 以外 | 複数データ |

**■解説**

- LayoutFile プロパティを設定した時点で、入力データはすべてクリアされます。

**■使用例**

多面取りレイアウトの複数データを取得します。

```
Dim Result As Integer
Dim PrnDataArray1(0 to 3) As String
Dim PrnDataArray2() As String
PrnDataArray1(0) = "商品 A" & Chr$(9) & "1"
PrnDataArray1(1) = "商品 B" & Chr$(9) & "2"
PrnDataArray1(2) = "商品 C" & Chr$(9) & "1"
PrnDataArray1(3) = "商品 D" & Chr$(9) & "1"
Result = MLComponent.SetPrnDataArray(PrnDataArray1)          ‘ 複数データ設定
If Result <> 0 Then
  //設定エラー
End If
PrnDataArray2 = GetPrnDataArray()                            ‘ 複数データ取得
```

**■関連項目**

| | |
|---|---|
| プロパティ | LayoutFile、PrnData、PrnDataType |
| メソッド | SetPrnDataArray |

# 3-15 [データ]SetPrnDataArray メソッド

複数データを設定します。

■書式

MLComponent.SetPrnDataArray(ByRef *PrnDataArray* As String()) As Integer

■パラメータ

| パラメータ | 設定値 | 説明 |
|---|---|---|
| *PrnDataArray* | 任意文字列 | 各項目を PrnDataType プロパティで指定に対応した文字の区切りで指定します。 |

■戻り値

| 戻り値 | 説明 |
|---|---|
| 0 | 設定完了しました。 |
| 0 以外の数値 | 設定失敗しました。 |

■解説

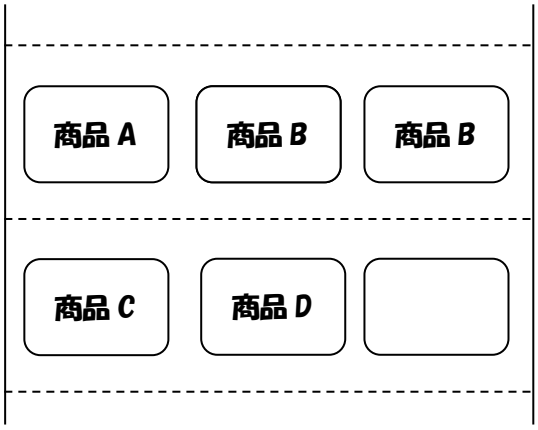
- LayoutFile プロパティを設定した時点で、設定したデータは初期化されます。
- 値を設定すると PrnData プロパティ、SetPrnDataField メソッドで設定したデータは初期化されます。
- バーコードにチェックデジットを含めたデータを指定する際は、チェックデジットが正しいかお客様のアプリケーションで必ずチェックした上で指定してください。チェックが出来ない場合は、チェックデジットを含まないデータに変更するか、変数の設定でチェックデジット部分を取り除くようにレイアウトファイルを変更してください。
- 発行枚数は、最大 999999（PW208 を除くラパンシリーズは 9999）まで指定可能です。
- QR コード等のバーコードデータに制御コードを含める場合は、レイアウトの入力変数種類を「16 進文字コード」に設定し、上位アプリからは 16 進文字列のデータをセットしてください。（例：12345<TAB>の場合、「313233343509」をセット）
- Setting プロパティが DRV（プリンタドライバ）以外の場合は、1 シート以上とならない発行枚数を指定してください。1 シート以上となる発行枚数を指定した場合は Output メソッドでエラーとなります。
- 文字列を任意の場所で改行する場合は、文字オブジェクトで Windows フォント(WPF)またはプリンタフォントを指定し、詳細設定で「強制改行記号」に設定した文字を改行用の記号として入力してください。

■使用例

多面取りレイアウト(横３面取り)の複数データをセットします。

```
Dim Result As Integer
Dim PrnDataArray(0 to 3) As String
PrnDataArray(0) = "商品 A" & Chr$(9) & "1"
PrnDataArray(1) = "商品 B" & Chr$(9) & "2"
PrnDataArray(2) = "商品 C" & Chr$(9) & "1"
PrnDataArray(3) = "商品 D" & Chr$(9) & "1"
```

```
Result = MLComponent.SetPrnDataArray(PrnDataArray)　　‘ 複数データを設定
If Result <> 0 Then
  //設定エラー
End If
Result = MLComponent.Output()　　‘ 発行処理
If Result <> 0 Then
  //発行エラー
End If
```




■関連項目

プロパティ　LayoutFile、PrnData、PrnDataType

メソッド　Output、GetPrnDataArray

# 3-16 [デバイス]EnumerateBluetoothDevices メソッド

Bluetooth デバイスの検索を実行します。

## ■書式

MLComponent.EnumerateBluetoothDevices(
ByVal *SearchTime* As Integer) As Object

## ■パラメータ

| パラメータ | 設定値 | 説明 |
|---|---|---|
| *SearchTime* | 任意数値 | 検索時間の秒指定（1～61） |

## ■戻り値

| 戻り値 | 配列 | 説明 |
|---|---|---|
| デバイス情報<br>（2 次元配列） | 行数 | 検出したデバイス数 |
| | 列 1 | BD アドレス（12 桁の 16 進数） |
| | 列 2 | デバイス名 |
| | 列 3 | ペアリングの有無（True：ペアリング済み、False：未ペアリング） |

## ■解説

- PC 側の Bluetooth デバイスは、Microsoft 標準の Bluetooth スタック（Microsoft Bluetooth Enumerator）のみ使用可能です。その他の Bluetooth スタックでは動作保証されていません。
- 検索結果が 0 件、SearchTime に不正な値が指定されている、Bluetooth デバイスが存在しない、Bluetooth スタックが Microsoft 標準ではないなどの場合は、戻り値の要素数が「0」となります。
- ペアリング済みのデバイスは、実際にデバイスが見つからない状況（電源が OFF または電波が届かない）でも検索結果に反映されます。

## ■使用例

デバイスを検索します。

```
Dim arrayVar As Object = MLComponent.EnumerateBluetoothDevices (10)　'10 秒間デバイスを検索
Dim DevArray As Object(,) = CType(arrayVar, Object(,))　　'配列に変換
For n = DevArray.GetLowerBound(0) To DevArray.GetUpperBound(0)
　　Dim address As String = CType(DevArray(n, 0), String)　　'BD アドレス取得
　　Dim name As String = CType(DevArray(n, 1), String)　　'デバイス名取得
　　Dim isauth As String = CType(DevArray(n, 2), String)　　'ペアリング有無取得
　　Debug.WriteLine(address & ", " & name & ", " & isauth)
Next
'出力例　00aabbccddee, SATO MOBILE PRINTER, False
```

■関連項目

メソッド　　AuthenticateBluetoothDevice

## 3-17 [デバイス]AuthenticateBluetoothDevice メソッド

Bluetooth デバイス認証（ペアリング）を実行します。

### ■書式

```
MLComponent.AuthenticateBluetoothDevice(
                                    ByVal Address As String,
                                    ByVal PIN As String,
                                    ByVal SearchTime As Integer) As Integer
```

### ■パラメータ

| パラメータ | 設定値 | 説明 |
|---|---|---|
| *Address* | 任意文字列 | BD アドレス（12 桁の 16 進数） |
| *PIN* | 任意文字列 | Bluetooth デバイスの PIN コード |
| *SearchTime* | 任意数値 | 検索時間の秒指定（1～48） |

### ■戻り値

| 戻り値 | 説明 |
|---|---|
| 0 | ペアリングが完了しました。 |
| 3 | 通信ポートがオープンされています。ClosePort でポートをクローズしてください。 |
| 700 | PC に Bluetooth デバイスがありません（Bluetooth デバイスが無効です）。<br>Bluetooth スタックが Microsoft 標準ではありません。 |
| 701 | 不正な BD アドレスが指定されています。<br>指定された BD アドレスのデバイスが存在しません（検索タイムアウト）。 |
| 702 | 不正な PIN コードが指定されています。 |
| 703 | 指定された PIN コードで認証できません。（プリンタから認証を拒否されました。） |

### ■解説

- PC 側の Bluetooth デバイスは、Microsoft 標準の Bluetooth スタック（Microsoft Bluetooth Enumerator）のみ使用可能です。その他の Bluetooth スタックでは動作保証されていません。
- 本メソッドはペアリングのみ行います。仮想 COM ポートへのサービス登録は行いません。
- Bluetooth Ver.3.0 のプリンタで認証レベルをレベル 1（認証なし）に設定している場合、本メソッドは必要ありません。
- 指定された時間だけ検索を行った後にペアリングを行います。デバイスが見つからない場合は、検索時間を長くして再実行してください。
- 指定された BD アドレスのデバイスがペアリング済みの場合は、一旦デバイス情報を削除してから再度ペアリングを行います。

■使用例

指定アドレスのデバイスをペアリングします。

```
Dim Result As Integer
Dim Address As String = "00aabbccddee"                    'BD アドレスを設定
Dim PIN As String = "1234"                                'PIN  を設定
Dim SearchTime As Integer = 3                             '検索時間を設定
Result = MLComponent.AuthenticateBluetoothDevice (Address, PIN, SearchTime)
If Result = 0 Then
        'ペアリング成功
End If
```

■関連項目

メソッド　　EnumerateBluetoothDevices

# 3-18 [例外] MLComponentException クラス

MLComponent の実行エラーで通知される例外です。

■例外が発生するメソッド

SendStringData、SendRawData

■名前空間

SATO.MLComponent

■継承階層

System.Exception
　　└SATO.MLComponentException

■Public プロパティ

| プロパティ名 | 型 | get | set | 説明 |
|---|---|---|---|---|
| Number | int | ○ | × | エラー番号を格納します。 |

■使用例

```
Dim RecvData As String
Dim Command As String

  中略(コマンド生成)

Try
    RecvData = MLComponent.SendStringData(0, Command, 10, Chr$(&H3))  ‘ コマンド送信
    '  データ解析
Catch ex As MLComponentException
    If ex.Number = 5 Then
        ‘ ポートオープンエラー
    Else If ex.Number = 54 Then
        ‘ コマンド文字列エラー
    End If
End Try
```

■エラー内容

| エラー番号 | Err オブジェクト<br>エラーコード | 説明 |
|---|---|---|
| 5 | &H80040205 | ポートがオープンされていません<br>Port is not open. |

| | | |
|---|---|---|
| 7 | &H80040207 | コマンド送信中にエラーが発生しました。<br>An error occurred while sending command. |
| 8 | &H80040208 | コマンド送信中にタイムアウトが発生しました。<br>An timeout occurred while sending command. |
| 9 | &H80040209 | 応答受信中にエラーが発生しました。<br>An error occurred while receiving response. |
| 10 | &H8004020A | 応答受信中にタイムアウトが発生しました。<br>An timeout occurred while receiving response. |
| 54 | &H80040236 | コマンド文字列が空です。<br>Command is empty. |

**■解説**

- Visual Studio で例外を Catch した場合は、Exception の Message プロパティにメッセージが格納されます。
- Err オブジェクトを使用した場合は、Number プロパティにエラーコード、Description プロパティにメッセージが格納されます。

# 3-19 通信エラー

通信エラーについて説明します。

**■通信エラー発生メソッド**

Output、OutputHeader、OutputTail、SendStringData、SendRawData、GetStatus、Cut、SendCancel

**■通信エラー一覧**

通信エラー発生時は ClosePort メソッドで切断し、下記対策を行った上で再度 OpenPort メソッドを実行してください。

| 戻り値 | 内容 | 原因 |
|---|---|---|
| 7 | コマンド送信中（ステータス要求中）にエラーが発生しました。 | ①②③④ |
| 8 | コマンド送信中（ステータス要求中）にタイムアウトが発生しました。 | ⑤ |
| 9 | 応答受信中（ステータス受信中）にエラーが発生しました。 | ①②③④⑥⑦ |
| 10 | 応答受信中（ステータス受信中）にタイムアウトが発生しました。 | |

原因①　プリンタの電源が入っていない。
⇒プリンタの電源を確認してください。

原因②　ケーブルが差さっていない。
⇒PC とプリンタがしっかりとケーブルで接続されているか、ケーブルが断線していないか確認してください。

原因③　プリンタが既に使用されている。（LAN の場合のみ）
⇒他の PC やソフト、プリンタドライバ等がプリンタを使用していないか確認してください。

原因④　プリンタドライバが起動していない。
⇒コントロールパネルの管理ツールでサービスの「Print Spooler」が正常に起動しているかご確認ください。

原因⑤　ボーレートが異なる。（RS-232C の場合のみ）
⇒プリンタのボーレートと Setting プロパティの設定を合わせてください。

原因⑥　通信プロトコルが異なる。
⇒プリンタの通信プロトコルと Protocol プロパティの設定を合わせてください。
LAN、ステータス４の場合は、必ず ENQ 応答モードに設定してください。
設定方法は「5-3 通信プロトコルの設定方法」をご参照ください。

原因⑦　ネットワーク環境によって、通信の遅延が発生している。（LAN の場合のみ）
⇒Timeout プロパティの値を調整してください。（初期値 3 秒）

# 3-20 発行エラー

発行エラーについて説明します。

■発行エラー発生メソッド

Output、OutputHeader、OutputTail

■発行エラー一覧

発行エラーはレイアウトファイルやプリンタ情報ファイルなど発行に必要な情報がない場合に発生します。エラー発生時はエラーの内容に応じた対処を行ってください。

| 戻り値 | 内容<br>詳細 |
|---|---|
| ファイルロードエラー：必要なファイルを用意してください。 | |
| 51 | レイアウト情報ファイルのロード時にエラーが発生しました。<br>レイアウトファイル（.mllayx）が存在しないか、読取りが出来ません。リクエストで指定したファイルパスをご確認ください。他のアプリケーションで利用されている場合、アクセス権限がない場合は読取りできません。<br>Windows アップデートの不具合により PC のフォント情報が読み取れません。更新プログラムを適用してください。<br>https://support.microsoft.com/ja-jp/help/4074906/ |
| 52 | プリンタ情報のロード時にエラーが発生しました。<br>レイアウトファイルで使用されているプリンタ機種が現在のバージョンでサポートされていません。MLComponent をバージョンアップしてください。 |
| 57 | 印字データが無効です。<br>PrnDataType プロパティに設定したデータタイプと異なるデータが設定されています。指定しているデータをご確認ください。 |
| 61 | レイアウトファイルのロード時にエラーが発生しました。<br>レイアウトファイルが MLComponent より新しいバージョンの MLV6 で作成されています。MLComponent をバージョンアップしてください。 |
| 62 | グローバル情報ファイルのロード時にエラーが発生しました。<br>グローバル情報ファイルが MLComponent より新しいバージョンの MLV6 で作成されています。MLComponent をバージョンアップしてください。 |
| 63 | ヘッダ札ファイルのロード時にエラーが発生しました。<br>ヘッダ札ファイルが MLComponent より新しいバージョンの MLV6 で作成されています。MLComponent をバージョンアップしてください。 |
| 64 | テール札ファイルのロード時にエラーが発生しました。<br>テール札ファイルが MLComponent より新しいバージョンの MLV6 で作成されています。MLComponent をバージョンアップしてください。 |
| 65 | グローバルテーブルファイルのロード時にエラーが発生しました。<br>グローバルテーブルファイルが MLComponent より新しいバージョンの MLV6 で作成されています。MLComponent をバージョンアップしてください。 |

| | |
|---|---|
| 66 | グローバルチェックテーブルファイルのロード時にエラーが発生しました。 |
| | グローバルチェックテーブルファイルがMLComponentより新しいバージョンのMLV6で作成されています。MLComponentをバージョンアップしてください。 |
| 100 | グローバルファイルのロード時にエラーが発生しました。 |
| | レイアウトに設定されているグローバル情報ファイル（.mlglex）が存在しないか、読取りが出来ません。レイアウトに設定されているファイルパスをご確認ください。他のアプリケーションで利用されている場合、アクセス権限がない場合は読取りできません。 |
| 101 | ヘッダ札ファイルのロード時にエラーが発生しました。 |
| | レイアウトに設定されているヘッダ札レイアウトファイル（.mlhtlx）が存在しないか、読取りが出来ません。レイアウトに設定されているファイルパスをご確認ください。他のアプリケーションで利用されている場合、アクセス権限がない場合は読取りできません。 |
| 102 | テール札ファイルのロード時にエラーが発生しました。 |
| | レイアウトに設定されているテール札レイアウトファイル（.mlhtlx）が存在しないか、読取りが出来ません。レイアウトに設定されているファイルパスをご確認ください。他のアプリケーションで利用されている場合、アクセス権限がない場合は読取りできません。 |
| 103 | グローバル情報ファイルの設定がヘッダ・テール札と一致しません。 |
| | レイアウトとヘッダ・テール札レイアウトに設定されているグローバル情報ファイル（.mlglex）の設定をご確認ください。 |
| 110 | レイアウト情報ファイルの保存時にエラーが発生しました。 |
| | レイアウトファイルの保存ができません。書き込みが禁止されていないかご確認ください。 |
| 111 | グローバルファイルの保存時にエラーが発生しました。 |
| | グローバルファイルの保存ができません。書き込みが禁止されていないかご確認ください。 |
| 120 | レイアウトファイルの連番値の保存に失敗しました。 |
| | 連番値の保存に失敗しました。レイアウトファイルを ML プリントで開き、実際のラベルの印字結果を基に連番の値を修正してください。<br>連番の利用には制限事項があります。連番変数をご参照ください。 |
| 121 | グローバル情報ファイルの連番値の保存に失敗しました。 |
| | 連番値の保存に失敗しました。レイアウトファイルを ML プリントで開き、実際のラベルの印字結果を基に連番の値を修正してください。<br>連番の利用には制限事項があります。連番変数をご参照ください。 |
| 152 | ヘッダ札のプリンタタイプが一致していません。 |
| | レイアウトとヘッダ札レイアウトファイル（.mlhtlx）のプリンタタイプ（サトープリンタ／カラープリンタ）を合せてください。 |
| 153 | テール札のプリンタタイプが一致していません。 |
| | レイアウトとテール札レイアウトファイル（.mlhtlx）のプリンタタイプ（サトープリンタ／カラープリンタ）を合せてください。 |
| 例外エラー | |
| 201 | プリンタコマンド生成前の処理で例外エラーが発生しました。 |
| | 例外エラーについてをご参照ください。 |
| 202 | プリンタコマンド生成処理中に例外エラーが発生しました。 |

| | |
|---|---|
| | 例外エラーについてをご参照ください。 |
| **対象変数エラー：対象となる変数を再度設定し直してください。** | |
| 300 | 日時変数の対象変数検索時にエラーが発生しました。 |
| | 日時変数の経過値に設定した変数がレイアウトに存在しません。 |
| 301 | 編集前複写変数の対象変数検索時にエラーが発生しました。 |
| | 編集前複写変数の複写対象に設定した変数がレイアウトに存在しません。 |
| 302 | 入力日時変数の対象変数検索時にエラーが発生しました。 |
| | 入力日時変数の経過値か位上対象に設定した変数がレイアウトに存在しません。 |
| 303 | テーブル変換の対象変数検索時にエラーが発生しました。 |
| | テーブル変換の変換対象キーに設定した変数がレイアウトに存在しません。 |
| 304 | プライス丸め変数の対象変数検索時にエラーが発生しました。 |
| | 計算変数のプライス丸めで丸め対象に設定した変数がレイアウトに存在しません。 |
| 306 | プライスチェックＣＤ変数の対象変数検索時にエラーが発生しました。 |
| | 計算変数のプライスチェックＣＤで計算対象に設定した変数がレイアウトに存在しません。 |
| 307 | クロスチェック変数の対象変数検索時にエラーが発生しました。 |
| | 分割変数のクロスチェックで比較対象に設定した変数がレイアウトに存在しません。 |
| 308 | 編集後複写変数の対象変数検索時にエラーが発生しました。 |
| | 編集後複写変数の複写対象に設定した変数がレイアウトに存在しません。 |
| 309 | 結合変数の結合子変数検索時にエラーが発生しました。 |
| | 結合変数の子項目に設定した変数がレイアウトに存在しません。 |
| 310 | 結合項目の親変数検索時にエラーが発生しました。 |
| | 結合変数の親項目となる変数がレイアウトに存在しません。 |
| 320 | レイアウトに割り付いたローカル変数検索時にエラーが発生しました。 |
| | デザインオブジェクトで設定したローカル変数がレイアウトに存在しません。 |
| 321 | レイアウトに割り付いたグローバル変数検索時にエラーが発生しました。 |
| | デザインオブジェクトで設定したグローバル変数がレイアウトに存在しません。 |
| **編集エラー：発行時動作設定のエラー処理で「グラフィック変換エラー」が有効な場合に発生します。** | |
| 330 | 指定されたパスにグラフィックがありません。 |
| | パスが正しいか、ファイルが存在するかご確認ください。 |
| 332 | グラフィックテーブルに指定された No.のグラフィックがありません。 |
| | No.が正しいか、グラフィックテーブルに正しく登録されているかご確認ください。 |
| 333 | 指定されたパスからグラフィックが読み込めません。 |
| | グラフィック形式が BMP/GIF/JPEG/PNG/TIFF/WMF/EMF ではない、グラフィックファイルではないなどファイル内容が正しいかご確認ください。 |
| **編集エラー：発行時動作設定のエラー処理で括弧内に記載した設定を有効にした場合に発生します。** | |
| 400 | 日時変数編集時にエラーが発生しました。（日時項目編集エラー） |
| | 日時の計算が出来ません。経過値を確認してください。 |
| 403 | テーブル変換時にエラーが発生しました。（テーブル変換エラー） |
| | テーブルー覧に入力値に合致する値がありません。 |
| 404 | ＯＤＢＣテーブル変換時にエラーが発生しました。（ODBC テーブル変換エラー） |

| | |
|---|---|
| | テーブルー覧（ODBC）に入力値に合致する値がありません。 |
| 405 | プライス丸め計算時にエラーが発生しました。（プライス丸め変換エラー） |
| | プライス丸め計算が出来ません。丸め対象変数の入力値を確認してください。 |
| 406 | 四則演算計算時にエラーが発生しました。（数式計算エラー） |
| | 四則演算が出来ません。入力値を確認してください。 |
| 407 | プライスチェックＣＤ計算時にエラーが発生しました。（プライス C/D 計算エラー） |
| | プライスチェック CD 計算が出来ません。対象変数の入力値を確認してください。 |
| 408 | ￥・カンマ編集時にエラーが発生しました。（通貨カンマ編集エラー） |
| | テーブル変換や計算などで￥・カンマを付加するための桁数が足りません。入力値や変数の桁数を確認してください。 |
| 409 | １文字補填編集時にエラーが発生しました。（1 文字補填編集エラー） |
| | テーブル変換や計算などで 1 文字補填するための桁数が足りません。入力値や変数の桁数を確認してください。 |
| 410 | ＣＤ計算時にエラーが発生しました。（C/D 計算エラー） |
| | モジュラス 11 で CD 置換をエラー判定にした場合、置換できない CD 値の場合にエラーが発生します。入力値を確認してください。 |
| 411 | 特殊編集時にエラーが発生しました。 |
| | 特殊編集で利用する DLL や関数が存在しないなど編集情報が足りません。再度設定し直してください。 |
| 413 | 税編集時にエラーが発生しました。（税編集エラー） |
| | 消費税率が設定されていません。TaxRate プロパティを設定してください。 |
| 414 | Excel テーブル変換時にエラーが発生しました。 |
| | テーブルー覧に入力値に合致する値がありません。 |
| 415 | アプリケーション識別子データの変換時にエラーが発生しました。（アプリケーション識別子データ変換エラー） |
| | アプリケーション識別子の書式と一致しないデータがセットされています。詳細は ML プリントの[ファイル]＞[ヘルプ]を開き、4.6.1.4.[エラー処理]の章をご参照ください。 |
| 430 | 条件判定でエラーが発生しました。（条件判定エラー） |
| | 条件変数の条件式で判定結果が計算できません。条件式や対象の変数に正しい値が設定されているかご確認ください。 |
| 431 | 条件判定結果で使用する変数が見つかりません。（条件判定エラー） |
| | 条件変数の判定結果に指定した変数が存在するかご確認ください。 |
| 610 | 用紙に印字できない項目が存在します。（用紙外に指定した項目が存在する場合） |
| | オブジェクトが用紙外に配置されています。ML デザインでエラーのオブジェクトがないかご確認ください。印字に必要ないオブジェクトは属性設定の印字で「印字しない」に設定してください。 |
| **編集エラー：RFID データのデータチェック時に仕様と異なる場合に発生します。** | |
| 340 | レイアウトに割り付いたローカル変数の入力データエラーが発生しました。 |
| | RFID オブジェクトの入力形式が「16 進文字コード(HEX)」です。入力データは、16 進文字コードの 0～9、A～F（a～f）にしてください。 |

| | |
|---|---|
| 341 | レイアウトに割り付いたグローバル変数の入力データエラーが発生しました。 |
| | RFID オブジェクトの入力形式が「16 進文字コード(HEX)」です。入力データは、16 進文字コードの 0～9、A～F（a～f）にしてください。 |
| 342 | レイアウトに割り付いたローカル変数の最小桁数エラーが発生しました。 |
| | RFID オブジェクトのデータ桁数をご確認ください。 |
| 343 | レイアウトに割り付いたグローバル変数の最小桁数エラーが発生しました。 |
| | RFID オブジェクトのデータ桁数をご確認ください。 |
| 344 | レイアウトに割り付いたローカル変数の最大桁数エラーが発生しました。 |
| | RFID オブジェクトのデータ桁数をご確認ください。 |
| 345 | レイアウトに割り付いたグローバル変数の最大桁数エラーが発生しました。 |
| | RFID オブジェクトのデータ桁数をご確認ください。 |
| 346 | レイアウトに割り付いたローカル変数の入力データ桁数エラーが発生しました。 |
| | RFID オブジェクトのデータ桁数をご確認ください。 |
| 347 | レイアウトに割り付いたグローバル変数の入力データ桁数エラーが発生しました。 |
| | RFID オブジェクトのデータ桁数をご確認ください。 |
| 348 | レイアウトに割り付いたローカル変数の入力データエラーが発生しました。 |
| | RFID オブジェクトの入力形式が「2 進数(BINARY)」です。入力データは、2 進数データ(0、1)にしてください。 |
| 349 | レイアウトに割り付いたグローバル変数の入力データエラーが発生しました。 |
| | RFID オブジェクトの入力形式が「2 進数(BINARY)」です。入力データは、2 進数データ(0、1)にしてください。 |
| 433 | レイアウトに割り付いたローカル変数のアプリケーション識別子データ変換時にエラーが発生しました。 |
| | アプリケーション識別子の書式に適したデータを入力してください。 |
| 434 | レイアウトに割り付いたグローバル変数のアプリケーション識別子データ変換時にエラーが発生しました。 |
| | アプリケーション識別子の書式に適したデータを入力してください。 |
| 437 | レイアウトに割り付いたローカル変数の最大値エラーが発生しました。 |
| | RFID 変数のシリアル番号は「274877906943」以下を入力してください。 |
| 438 | レイアウトに割り付いたグローバル変数の最大値エラーが発生しました。 |
| | RFID 変数のシリアル番号は「274877906943」以下を入力してください。 |
| 440 | レイアウトに割り付いたグローバル変数のフィルターバリュー固定値エラーが発生しました。 |
| | RFID 変数のフィルターバリューで固定値が使用できません。レイアウトファイルを MLV6 ファイルバージョン 3 以上に更新してください。 |
| **描画エラー：発行時動作設定のその他で「画像描画をチェックして黒塗りの場合はエラーメッセージを表示する」を有効にした場合に発生します。** | |
| 130 | 画像描画で黒塗りが発生しました。 |

| | |
|---|---|
| | • Windows Update の不具合が発生している可能性があります。最新の更新プログラムを適用して改善されるかご確認ください。<br>• 発行中に「ユーザーの切り替え」やリモートデスクトップ接続により操作する PC が切り替わる場合に発生している可能性があります。Windows の制限事項になるため、発行中はログインユーザーや操作 PC が切り替わるような運用は避けてください。 |
| **描画エラー：オブジェクトの描画に必要な情報がありません。** | |
| 450 | 条件印字の判定でエラーが発生しました。<br>印字条件設定で指定した変数やチェックテーブルが存在しない、または使用しているグローバル情報やグローバルチェックテーブルのファイル自体が存在しません。 |
| 470 | 文字の書式タグが不正です。<br>開始・終了タグの数が一致しているかなど書式タグの記述方法を確認してください。 |
| 471 | 文字の書式タグとして利用できない変数が設定されています。<br>シンボル変数で書式タグ指定は利用できません。文字オブジェクトの変数を変更してください。 |
| 472 | 文字の書式タグが有効の場合は C/D自動付加は利用できません。<br>C/D 自動付加を無効にしてください。 |
| 473 | 文字の書式タグが有効の場合はフォントサイズの幅は任意に設定できません。<br>フォントサイズの幅を自動にしてください。 |
| 600 | レイアウトで使用している Windows フォントがありません。<br>発行環境に該当する Windows フォントをインストールしてください。開発環境で一時的に発行テストを行う場合は、動作設定ファイルをご利用ください。動作設定ファイルの詳細はテクニックマニュアルをご参照ください。 |
| 601 | レイアウトで使用しているバーコードの情報がありません。<br>MLComponent をバージョンアップしてください。 |
| 602 | シンボル描画時にエラーが発生しました。<br>• MLComponent.dll と同じフォルダに BCD32.dll、BCD64.dll を配置してください。<br>• シンボルが描画できないデータがセットされています。詳細は ML プリントの[ファイル]＞[ヘルプ]を開き、4.6.1.4.[エラー処理]の章をご参照ください。 |
| **サポート外エラー：プロパティが利用できない組み合わせで設定されています。** | |
| 800 | プリンタドライバ出力、ファイル出力以外で、連番変数[数値（レイアウト）]、[文字]を使用しているレイアウトを発行することはできません。<br>プリンタドライバ出力に変更するか、入力変数に変更してアプリケーションから連番を入力する形に変更してください。 |
| 801 | プリンタドライバ、ファイル出力以外で、多面取りレイアウトに対して 1 シート以上の枚数を指定することはできません。<br>プリンタドライバ出力に変更するか、1 シート以内の発行枚数に変更してください。 |
| 802 | 発行枚数が指定されていません。<br>PrnData プロパティ、SetPrnDataField メソッド、SetPrnDataArray メソッドで入力するデータを確認してください。 |
| 803 | 多面取りまたは両面レイアウトでフォームオーバレイは指定できません。<br>フォームオーバーレイを使用せずに登録と発行を合せたレイアウトを利用してください。 |

| | |
|---|---|
| 804 | プリンタドライバ出力、ファイル出力以外で、多面取りでないレイアウトに対して SetPrnDataArray メソッドで複数データを指定することはできません。 |
| | インターフェース出力（LAN、USB、COM、Bluetooth）は 1 枚毎にデータを指定してプリンタの状態を確認しながら発行してください。 |
| 805 | 多面取りレイアウトで指定枚数カットが使用できません。 |
| | Ver.6.0.0.0 以降をご利用の場合、本エラーは発生しません。 |
| 820 | レイアウトにヘッダ札が設定されていません。 |
| | ヘッダ札を出力する場合は、発行時動作設定のヘッダ・テール札出力を設定してください。 |
| 821 | レイアウトにテール札が設定されていません。 |
| | テール札を出力する場合は、発行時動作設定のヘッダ・テール札出力を設定してください。 |
| 上記以外 | レイアウトファイルがサトープリンタレイアウトであるかご確認ください。カラープリンタレイアウトは有償版「MLComponentPlus」のみ対応しております。 |

### ■例外エラーについて

MLComponent が発行処理中に予期せぬタイミングで OS から例外をキャッチした場合に発生します。例外の詳細は、イベントログのイベントソース名「SATO MLV6 MLComponent」に出力されます。イベントソースが未登録の場合は、管理者権限の PowerShell で「New-EventLog -LogName ″Application″ -Source ″SATO MLV6 MLComponent″」を実行して登録してください。

・アプリケーションの再起動や発行間隔を空けることでエラーが復旧する場合
　メモリ不足が発生している可能性があります。動作設定ファイル*で「メモリ自動解放」を有効にして、メモリ使用量が安定するかご確認ください。メモリの自動解放で改善されない場合は、タスクマネージャーでアプリケーションのハンドル、GDI オブジェクトなどメモリ使用量を確認して、アプリケーションのロジックを改善してください。
　例：アプリケーションで発行時に生成したスレッドが発行終了後も破棄されずに残存していたため、ハンドル・GDI オブジェクトがリークしていた。発行スレッドを再利用するロジックに変更して改善した。

*動作設定ファイルの利用方法は別紙「**MLComponent テクニックマニュアル**」をご参照ください。

# 第４章

# 利用方法・注意事項

# 4-1 プログラミングについて

プログラミングに関する利用方法・注意事項を説明します。

### ■バージョンアップについて

MLComponent のバージョンアップは「MLComponent.dll」「MLComponent.XmlSerializers.dll」を上書きしてください。プログラムのリコンパイルは必要ありません。

### ■同一データのラベルを複数枚発行する場合

同一データのラベルを複数枚発行する場合、「発行枚数=1」を複数送信するのではなく、「発行枚数=N」（例：10 枚の場合は発行枚数=10）を１回送信する方が高速にラベル発行できます。

### ■カット動作について

カット動作は MultiCut プロパティ、EjectCut プロパティ、Cut メソッドで制御できます。初期値ではカットされません。詳細な利用方法は、別紙「**MLComponent テクニックマニュアル**」の[カット動作を制御する]をご参照ください。

### ■ASP.NET での利用

Web アプリケーション（JavaScript、ASP.NET など）での利用はサポートしておりません。

### ■初回起動時・レイアウトファイルロード時の遅延

MLComponent で使用している.NET Framework のライブラリがロードされるため、アプリケーション起動後に初めて MLComponent を呼び出す時、初めてレイアウト情報を読み込む時（Output メソッドや GetPrinter メソッドなど）に処理が遅延することがあります。
運用上で遅延が障害となる場合は、アプリケーションの起動時にスレッドを使用して非同期に MLComponent で仮のレイアウトを呼び出す、「MLComponent.XmlSerializers.dll」を MLComponent と共に配布するなどの方法で回避をお願い致します。また、発行用アプリをシェル起動で利用している場合は、マルチスレッドのご利用をご検討ください。

### ■高 DPI 設定について

Windows 10 以降のアプリケーションは高 DPI 設定の追加が必要です。マニフェストファイルまたは実行ファイルのプロパティを設定してください。高 DPI 設定を行っていない場合、アプリケーションの画面が実行中に小さくなる現象や Windows フォントの一部サイズが印字されない現象が発生します。

- マニフェストファイルで<dpiAware>を true または false に設定する。
  https://docs.microsoft.com/ja-jp/archive/blogs/ttanaka/dpihigh-dpi-3-12503
  ※開発アプリケーションの GUI が高 DPI を考慮していない場合は false を設定します。

- アプリケーション（*.exe）のプロパティで、互換性タブの「高い DPI スケールの動作を上書きします。」を有効にし、拡大縮小の実行元を「システム」または「システム（拡張）」を選択する。

■メモリ使用量について（レイアウトが崩れる現象）

OS の「メモリ」「ハンドル」「スレッド」「GDI オブジェクト」などの各種リソースが不足すると、レイアウトで指定されたフォント種やサイズで印字されない、グラフィックが抜ける（空印字）など印字内容に障害が発生することが確認されています。

安定した稼動を実現する為に、開発アプリケーションのラッシュテスト（負荷テスト、ストレステスト）時に、各種リソースの消費量やリークなどについて充分な確認をお願いいたします。

■マルチスレッドの利用

マルチスレッドで複数同時に Output を実行すると、処理の負荷が大きくなり、発行速度の遅延が発生する可能性があります。速度の遅延が発生する場合は、発行環境や利用方法の改善を行ってください。

- 文字オブジェクトをプリンタフォントに変更するなどレイアウトを修正しデータサイズを削減する。
- 発行端末やプロセス(アプリケーション)を分けることで負荷を分散させる。
- 同時起動のスレッド数を減らすことで 1 スレッド当りの発行時間を短縮させる。

Visual Studio でマルチスレッドを Thread クラスで実装する場合は、スレッドのネストが深くなると、Windows の不具合により、メモリが解放されない場合があります。Task クラスをご利用いただくか、発行処理スレッドのネストを見直ししてください。

■Visual Studio 上の例外について

Visual Studio でデバッグ実行中に、MLComponent が内部で Catch している例外が出力ウィンドウに表示される場合があります。デバッグ動作に支障がある場合は、デバッグの設定を「マイコードのみ」に変更してください。

https://docs.microsoft.com/ja-jp/visualstudio/debugger/just-my-code

■プリンタのスリープモードについて

「CL4NX-Jシリーズ」「CL6NX-Jシリーズ」「PW208NX/PW208」をご利用の際、プリンタがスリープモードになっていると出力メソッド(Output、OutputHeader、OutputTail、Cut、SendCancel)がエラー11になる場合があります。下記のいずれかの方法で対応してください。

1. スリープモードをOFFに変更する。
   スリープモードの変更方法は、プリンタの取扱説明書をご参照ください。
   https://www.sato.co.jp/support/printer/

2. プリンタファームウェアを更新する。（PW208NX/ PW208のみ）
   担当営業、またはお客さまヘルプデスクまでご連絡ください。
   https://www.sato.co.jp/contact/

■Windows フォント(WPF)の全角スペースが.NET Framework のバージョンによって異なる

Windows フォント(WPF)でシャープ有効時、全角スペースの幅が.NET Framework のバージョンによって若干異なります。PC や MLComponent の入れ替え等で.NET Framework を 4.6.2 以降にバージ

ョンアップした場合、印字データに全角スペースが使われていると印字位置がずれる可能性があります。自動改行の位置など印字内容に影響がないかご確認ください。

### ■Windows フォント(WPF)の使用について

Windows フォント(WPF)を MLComponent、MLPreviewComponent で利用する場合、発行またはプレビュー実行中に、お客様のアプリケーションで.NET Framework(WPF)の文字描画（DrawingContext.DrawText などの文字描画 API）を同時に実行しないでください。Windows 内部で発生する現象により、まれに入力した文字と異なる文字が印字される可能性があります。

### ■発行履歴について

ML プリントで発行した際に保存される発行履歴・連番履歴ファイルは、MLComponent では保存されません。発行履歴が必要な場合は、お客様のアプリケーションでログを出力してください。

# 4-2 インターフェースについて

接続方法に関する利用方法・注意事項を説明します。

## ■LAN

- **指定方法について**

  Setting プロパティをご参照ください。

- **接続・切断について**

  発行する度に OpenPort メソッド・ClosePort メソッドを繰り返す場合は、ClosePort メソッド実行後に 200ms 以上経過してから次の OpenPort メソッドを実行してください。間隔を空けずに OpenPort メソッドを実行すると二重接続が発生する可能性があります。

- **二重接続**

  他のアプリケーションがプリンタを使用している時、OpenPort メソッドは成功しますが、出力メソッド（GetStatus、Output、SendStringData、SendRawData、Cut、SendCancel）でエラー（戻り値 7、9、10）が発生する可能性があります。接続後すぐに上記メソッドでエラーが発生する場合は ClosePort メソッドを実行し、ウエイト処理を入れるなどして再接続してください。

- **送信前の状態確認**

  出力メソッド（Output、SendStringData、SendRawData）を実行する前に GetStatus メソッドで必ずプリンタの状態をご確認ください。GetStatus メソッドでプリンタ状態の確認を行わずに出力メソッドを実行した場合、プリンタの状態によっては送信した印字データが消失し、プリンタの印字が停止する恐れがあります。

- **送信後の状態確認**

  Output メソッド実行直後に ClosePort メソッドを実行すると、OS やプリンタなど環境によって送信データが途切れる恐れがあります。そのため、ClosePort メソッドを実行する前に、GetStatus メソッドでプリンタとの通信状態を確認してください。

- **「ステータス 4」で利用時の注意点**

  ステータス４は、Output メソッド実行時にデータの到達を確認する ACK/NAK 確認が行われません。送信後に GetStatus メソッドでプリンタの状態を確認してください。

## ■USB

- **指定方法について**

  Setting プロパティをご参照ください。

- **送信前の状態確認**

  出力メソッド（Output、SendStringData、SendRawData）を実行する前に GetStatus メソッドで必ずプリンタの状態をご確認ください。GetStatus メソッドでプリンタ状態の確認を行わずに

出力メソッドを実行した場合、プリンタの状態によっては送信した印字データが消失し、プリンタの印字が停止する恐れがあります。

- **通信プロトコルについて**
  ステータス４を指定してください。

- **64 ビット OS での利用**
  MLComponent Ver.6.0.0.0 以降、64 ビットアプリ（AnyCPU または x64）で開発可能です。
  Ver.6.0.0.0 より前のバージョンを使用時は、32 ビットアプリ（x86）で開発してください。

- **排他制御**
  USB 接続時は排他制御できません。アプリ内の複数スレッドや複数のアプリで、同時に発行処理が行われないように運用にご注意ください。

- **Setting プロパティの[プリンタ機種]について**
  MLComponent Ver.5.9.9.0 で「プリンタ機種」の指定を廃止しました。
  Ver.5.9.9.0 以降も互換機能として動作しますが、機種追加は行いません。今後、USB プリンタが 1 台のときは「USB:」、2 台以上のときは「USB:(シリアル No.)」を指定してください。

（「プリンタ機種」指定時の記述例 USB:[機種名][,SerialNo.(省略可)]）

| プリンタ機種 | シリアル No. | 説明 |
|---|---|---|
| なし | なし | USB デバイスの検索で最初に見つかったサトー製プリンタ |
| なし | あり | 指定されたシリアル No.のサトー製プリンタ |
| あり | なし | USB デバイスの検索で指定されたプリンタ機種で最初に見つかったサトー製プリンタ |
| あり | あり | 指定されたプリンタ機種、シリアル No.のサトー製プリンタ |

「プリンタ機種」の設定値（対応済みの機種名）

| レイアウト選択の名称 | 設定値 |
|---|---|
| Et Vie(エヴィ)EV208R | EV208R |
| Et Vie(エヴィ)EV212R | EV212R |
| Et Vie(エヴィ)EV208R(SATOC) | EV208R |
| Et Vie(エヴィ)EV212R(SATOC) | EV212R |
| バートロニクス CF408T | CF408T |
| バートロニクス RT308R | RT308R |
| スキャントロニクス HA212R | HA212R |
| スキャントロニクス HA224R | HA224R |
| スキャントロニクス CL4NX-J 08 | CL4NX-J 08 |
| スキャントロニクス CL4NX-J 12 | CL4NX-J 12 |
| スキャントロニクス CL4NX-J 24 | CL4NX-J 24 |

| | |
|---|---|
| SeaTa(シータ) CT4-LX DT203/TT203 | CT4-LX-J 203 |
| SeaTa(シータ) CT4-LX DT305/TT305 | CT4-LX-J 305 |
| L'esprit (レスプリ) HC4-LX DT203/TT203 | HC4-LX-J 203 |
| L'esprit (レスプリ) HC4-LX DT305/TT305 | HC4-LX-J 305 |
| スキャントロニクス CL6NX-J 08 | CL6NX-J 08 |
| スキャントロニクス CL6NX-J 12 | CL6NX-J 12 |
| スキャントロニクス GN412T | GN412T |
| SATOC(サトック)ST308R | ST308R |
| SATOC(サトック)ST312R | ST312R |
| Petit lapin(プチラパン)PW208NX/PW208mNX | PW208 |
| CL4NX(203dpi) | CL4NX(203dpi) |
| CL4NX(305dpi) | CL4NX(305dpi) |
| CL4NX(609dpi) | CL4NX(609dpi) |
| CT4-LX DT203/TT203 | CT4-LX 203 |
| CT4-LX DT305/TT305 | CT4-LX 305 |
| CL6NX(203dpi) | CL6NX(203dpi) |
| CL6NX(305dpi) | CL6NX(305dpi) |

- **Setting プロパティの[シリアル No.]について**

  [シリアル No.]は、Windows 上で確認できます。

  1. 電源が投入されたプリンタを USB 接続する。
  2. コントロールパネルからデバイスマネージャを起動する。
  3. ユニバーサル シリアル バス コントローラーの USB 印刷サポートを選択する。
  4. 右クリックしたメニューからプロパティを開く。
  5. 詳細タブのプロパティから「デバイス インスタンス パス」を選択する。
  6. 表示された値の末尾がシリアル No.に該当する。

     （例）USB¥¥VID_XXXX&PID_XXXX¥¥(8 桁のシリアル No.)

## ■COM

- **指定方法について**

  Setting プロパティをご参照ください。

- **送信前の状態確認**

  出力メソッド（Output、SendStringData、SendRawData）を実行する前に GetStatus メソッドで必ずプリンタの状態をご確認ください。GetStatus メソッドでプリンタ状態の確認を行わずに出力メソッドを実行した場合、プリンタの状態によっては送信した印字データが消失し、プリンタの印字が停止する恐れがあります。

## ■Bluetooth

- **指定方法について**

Setting プロパティをご参照ください。

- **Bluetooth スタック**
  PC 側の Bluetooth デバイスは、Microsoft 標準の Bluetooth スタック（Microsoft Bluetooth Enumerator）のみ使用可能です。その他の Bluetooth スタックでは動作保証されていません。

  その他の Bluetooth スタックでは、OpenPort メソッド、EnumerateBluetoothDevices メソッド、AuthenticateBluetoothDevice メソッドは正常に動作しない可能性があります。Microsoft 標準の Bluetooth スタックに入替えてください。入替え方法はパソコンまたは Bluetooth アダプタのメーカーにご確認ください。

- **二重接続**
  他のアプリケーションがプリンタを使用している時、Output メソッドは戻り値 7（接続エラー）となります。プリンタは 1 台の Bluetooth デバイスとしか通信が出来ません。

- **送信前の状態確認**
  出力メソッド（Output、SendStringData、SendRawData）を実行する前に GetStatus メソッドで必ずプリンタの状態をご確認ください。GetStatus メソッドでプリンタ状態の確認を行わずに出力メソッドを実行した場合、プリンタの状態によっては送信した印字データが消失し、プリンタの印字が停止する恐れがあります。

- **利用台数**
  Windows の仕様により PC 側から同時に接続できる Bluetooth デバイスの台数は 7 台までです。7 台を超える場合は、Output メソッドは戻り値 7（接続エラー）となります。

**■プリンタドライバ**

- **指定方法について**
  Setting プロパティをご参照ください。

- **使用できないプロパティ・メソッド**
  プロパティ　Protocol、Timeout
  メソッド　GetStatus

- **詳細設定[プリンタに直接印刷データを送る]について**
  プリンタドライバの[詳細設定]で[プリンタに直接印刷データを送る]に設定している場合、OpenPort に失敗し正常に動作しません。[印刷ドキュメントをスプールし、プログラムの印刷処理を高速に行う]に設定を変更するか、プリンタドライバを使用せずインターフェース出力（LAN、USB、COM、Bluetooth）をご利用ください。

- **詳細設定[印刷ドキュメントをスプールし、プログラムの印刷処理を高速に行う]について**
  プリンタドライバの[詳細設定]で「印刷ドキュメントをスプールし、プログラムの印刷処理を高速に

行う」に設定している場合、選択内容によってスプールの送信方法が異なります。
「すぐに印刷データをプリンターに送る」は、Output メソッドを連続して実行するか、ClosePort メソッドで送信を完了することで、プリンタに印刷データが送信されます。
「全ページ分のデータをスプールしてから、印刷データをプリンターに送る」は、ClosePort メソッドで送信を完了することで、プリンタに印刷データが送信されます。

- **Windows 10 で発行開始が遅い**
  Windows 7 では Output メソッドを実行する度に、一つ前の Output メソッドでスプールされたデータがプリンタに送信されていましたが、Windows 10 は OS の仕様変更によりスプールデータが 256KB 毎に送信されます。すぐにプリンタにデータを送信するには、Output メソッド直後に ClosePort を実行してください。

# 4-3 レイアウト情報について

レイアウト情報に関する利用方法・注意事項を説明します。

## ■入力定義

レイアウトファイルの入力定義（初期値や桁数制限、入力チェックなど）は、MLプリントの発行画面で使用される設定項目です。MLComponentでは動作しません。お客様のアプリケーションで入力定義の設定を利用する場合は、GetInputFieldsで取得してください。

## ■Windows フォント

文字オブジェクトで「Windowsフォント」を指定した場合、グラフィックで文字が描画されます。
様々な文字の表現や自由なサイズ調整が可能ですが、送信データが大きくなり、発行が遅くなるデメリットもあります。大量の連続発行やマルチスレッドでの利用で発行が遅い場合は、文字オブジェクトを「プリンタフォント」に変更することで改善されるかご確認ください。

| フォント | 対応文字<br>*フォント種による | サイズ調整 | 小さな文字 | データ量 |
|---|---|---|---|---|
| プリンタフォント | ○：必要十分 | △：倍率指定 | ○：きれい | ◎：小さい |
| Windows フォント | ◎：豊富 | ○:ポイント指定 | △：潰れる | △：大きい |

## ■グラフィックオブジェクト

取り込んだ画像ファイルをデザイン上で拡大・縮小すると画像の一部が薄くなったり、擦れたりすることがあります。元の画像ファイルを拡大・縮小してから取り込んでサイズを 100%で利用するか、グラフィックオブジェクトの伸縮モードを「GDI 互換」に設定して改善されるかご確認ください。

## ■固定オブジェクト（発行速度の改善）

貼り付け文字や罫線など、データによって内容が変わらない固定オブジェクトも発行時に解析して、プリンタコマンドに変換しています。発行動作設定のその他ページで「レイアウト保存時に固定項目をプリンタコマンドに変換する（高速化）」を有効にしてレイアウトを保存すると、固定オブジェクトの数が多い場合や Windowsフォントの貼り付け文字で自動改行が多く利用されている場合に発行速度を改善させることが可能です。

## ■連番変数

MLComponentでは、レイアウトファイルの連番変数ではなくアプリケーション側で連番を管理するようにしてください。連番変数を使用してもエラーにはなりませんが、以下の制限事項があります。
連番変数[数値（レイアウト）][文字]を使用している場合は、プリンタドライバ出力でラベル発行を行ってください。インターフェース出力＊の場合はOutputでエラー800となります。インターフェース出力＊で連番を利用する場合、アプリケーション側で連番値を指定するか、連番変数[数値（プリンタ）]をご利用ください。
レイアウトファイルに保存されている連番値の取得および変更はできません。また、Ver.6.2.0.0以降、連番値の保存に失敗した場合はエラー120/121となります。MLV6で確認・変更を行ってください。

お客様のアプリケーションで連番値の管理が必要な場合は、レイアウトファイルの連番保存方法を「なし」でご利用ください。

### ■多面取りラベル

インターフェース出力＊で多面取りラベルを利用する場合は、1シート分の発行枚数を入力してください。
1シート分を越える発行枚数を指定した場合は、Outputでエラー801となります。

＊インターフェース出力
Settingプロパティに「LAN:」「USB:」「COM:」「BT:」を指定する出力方法です。

### ■シンボル描画エラーの利用

レイアウトファイルの発行時動作設定で、エラー処理の「シンボル描画エラー」を有効にした場合は、MLComponent.dll と同じフォルダにBCD32.dll、BCD64.dll を配置してください。

### ■RFID オブジェクトの最小/最大桁数について

RFID オブジェクトに入力するデータの最小/最大桁数は、インレット種や IC チップの種類により異なります。

・通信帯が「HF」の場合

| 入力形式 / インレット種 | 文字(ASCII) | 16 進文字コード(HEX) | 2 進数データ (BINARY) |
|---|---|---|---|
| | 最大桁数 | 最大桁数 | 最大桁数 |
| I-CODE SLI | 112 | 224 | 896 |
| Tag-it HF-I | 256 | 512 | 2048 |

・通信帯が「UHF」の場合

| 入力形式 / IC チップ | | 文字(ASCII) | | 16 進文字コード(HEX) | | 2 進数データ (BINARY) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 最小桁数 | 最大桁数 | 最小桁数 | 最大桁数 | 最小桁数 | 最大桁数 |
| 指定なし | EPC | 2 | 62 | 4 | 124 | 16 | 496 |
| | USER | 2 | 1024 | 4 | 2048 | 16 | 8192 |
| MonzaR6 | EPC | 4 | 62 | 8 | 124 | 32 | 496 |
| M730 | EPC | 2 | 62 | 4 | 124 | 16 | 496 |
| M750 | EPC | 2 | 62 | 4 | 124 | 16 | 496 |
| | USER | 2 | 1024 | 4 | 2048 | 16 | 8192 |

### ■RFID オブジェクト(UHF)の桁数単位について

RFID オブジェクト(UHF)は IC チップに書き込むデータの単位が決まっています。
例として、IC チップが「MonzaR6」、入力形式が「16 進文字コード」の場合は、データの桁数は 8 の倍数(8 桁、16 桁、24 桁…)で設定します。

| 入力形式 / IC チップ | 文字(ASCII) | 16 進文字コード(HEX) | 2 進数データ (BINARY) |
|---|---|---|---|
| 指定なし | 2 の倍数 | 4 の倍数 | 16 の倍数 |
| MonzaR6 | 4 の倍数 | 8 の倍数 | 32 の倍数 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| M730 | 2 の倍数 | 4 の倍数 | 16 の倍数 |
| M750 | 2 の倍数 | 4 の倍数 | 16 の倍数 |

**■ファイル形式設定**

レイアウトファイルのファイル形式設定は、MLプリントでデータファイルを取込む際に使用される設定項目です。MLComponentでは動作しません。お客様のアプリケーションでデータを指定する場合は、PrnData(タブ/カンマ/スペース区切りで指定)、またはSetPrnDataField(変数名で指定)を利用してください。

# 第５章

# 付録

# 5-1 サポートプリンタ

MLComponent のサポートプリンタについて説明します。

分類表記:

P　：Protocol プロパティ　　D　：Darkness プロパティ
Spd　：Speed プロパティ　　MCt　：MultiCut プロパティ
ECt　：EjectCut プロパティ　　Sok　：SortMark プロパティ
F　：Formoverlay プロパティ　　Cut　：Cut メソッド

## ■シータシリーズ

| 機種名 | P | D | Spd | MCt | ECt | Sok | F | Cut |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| *CT4-LX-J 203* | 3,4 | 1～10 | 2～8 | ○ | ○ | × | ○ | ○ |
| *CT4-LX-J 305* | 3,4 | 1～10 | 2～6 | ○ | ○ | × | ○ | ○ |

## ■レスプリシリーズ

ﾚｽﾌﾟﾘT408/R408　⇒　ﾚｽﾌﾟﾘT8/R8
ﾚｽﾌﾟﾘT412/R412　⇒　ﾚｽﾌﾟﾘT12/R12

| 機種名 | P | D | Spd | MCt | ECt | Sok | F | Cut |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| *HC4-LX-J 203* | 3,4 | 1～10 | 2～8 | ○ | ○ | × | ○ | ○ |
| *HC4-LX-J 305* | 3,4 | 1～10 | 2～6 | ○ | ○ | × | ○ | ○ |

## ■スキャントロニクスシリーズ

CL4NX-J 08、CL4NX-J 08 Plus　⇒　CL4NX-J 08
CL4NX-J 12、CL4NX-J 12 Plus　⇒　CL4NX-J 12
CL4NX-J 24、CL4NX-J 24 Plus　⇒　CL4NX-J 24
CL6NX-J 08、CL6NX-J 08 Plus　⇒　CL6NX-J 08
CL6NX-J 12、CL6NX-J 12 Plus　⇒　CL6NX-J 12

| 機種名 | P | D | Spd | MCt | ECt | Sok | F | Cut |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| *CL4-SXR-J TT203* | 3,4 | 1～10 | 2～18 | ○ | ○ | × | ○ | ○ |
| *CL4-SXR-J TT305* | 3,4 | 1～10 | 2～16 | ○ | ○ | × | ○ | ○ |
| *CL4-SXR-J TT609* | 3,4 | 1～10 | 2～6 | ○ | ○ | × | ○ | ○ |
| *CL4NX-J 08* | 3,4 | 1～10 | 2～14 | ○ | ○ | × | ○ | ○ |
| *CL4NX-J 12* | 3,4 | 1～10 | 2～14 | ○ | ○ | × | ○ | ○ |
| *CL4NX-J 24* | 3,4 | 1～10 | 2～6 | ○ | ○ | × | ○ | ○ |
| *CL6-SXR-J TT203* | 3,4 | 1～10 | 2～14 | ○ | ○ | × | ○ | ○ |
| *CL6-SXR-J TT305* | 3,4 | 1～10 | 2～14 | ○ | ○ | × | ○ | ○ |
| *CL6NX-J 08 (LEFT-JUSTIFY)* | 3,4 | 1～10 | 2～10 | ○ | ○ | × | ○ | ○ |
| *CL6NX-J 12* | 3,4 | 1～10 | 2～8 | ○ | ○ | × | ○ | ○ |

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| *(LEFT-JUSTIFY)* | | | | | | | | |
| *CL6NX-J 08* | 3,4 | 1～10 | 2～10 | ○ | ○ | × | ○ | ○ |
| *CL6NX-J 12* | 3,4 | 1～10 | 2～8 | ○ | ○ | × | ○ | ○ |
| *M-48Pro8* | 3,4 | 1～3 | 2,4,6,8,10 | ○ | ○ | × | ○ | ○ |
| *M-48Pro12* | 3,4 | 1～3 | 2,4,6,8 | ○ | ○ | × | ○ | ○ |
| *M-48Pro24* | 3,4 | 1～3 | 2～6 | ○ | ○ | × | ○ | ○ |
| *HA212R* | 3,4 | 1～5 | 1～4 | × | × | × | ○ | × |
| *HA224R* | 3,4 | 1～5 | 1～4 | × | × | × | ○ | × |
| *GN412T* | 3,4 | 1～5 | 3～10 | ○ | ○ | × | ○ | ○ |

■SATOC シリーズ、エヴィシリーズ、バートロニクスシリーズ、FLEQV

ST308R、ST308R Plus ⇒ ST308R

ST312R、ST312R Plus ⇒ ST312R

FX3-LX、FX3-LX Plus ⇒ FX3-LX

| 機種名 | P | D | Spd | MCt | ECt | Sok | F | Cut |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| *RT308R* | 3,4 | 1～5 | 2～5 | ○ | ○ | × | ○ | ○ |
| *ST308R* | 3,4 | 1～3 | 2～10 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| *ST312R* | 3,4 | 1～3 | 2～10 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| *EV208R* | 3,4 | 1～5 | 2～5 | ○ | ○ | × | ○ | ○ |
| *EV212R* | 3,4 | 1～5 | 2～4 | ○ | ○ | × | ○ | ○ |
| *EV208R(SATOC)* | 3,4 | 1～5 | 2～5 | ○ | ○ | × | ○ | ○ |
| *EV212R(SATOC)* | 3,4 | 1～5 | 2～4 | ○ | ○ | × | ○ | ○ |
| *CF408T* | 3,4 | 1～10 | 2～6 | ○ | ○ | × | ○ | ○ |
| *FX3-LX* | 3,4 | 1～10 | 2～6 | ○ | ○ | × | ○ | ○ |

■ラパンシリーズ

PW208NX/PW208mNX ⇒ PW208

| 機種名 | P | D | Spd | MCt | ECt | Sok | F | Cut |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| *PW208* | 3,4 | 1～10 | 3～6 | × | × | × | ○ | × |
| *PW4NX* | 3,4 | 1～10 | 2～6 | × | × | × | ○ | × |
| *PT408e* | 3 | 1～5 | 3～4 | × | × | × | × | × |
| *PT412e* | 3 | 1～5 | 1～2 | × | × | × | × | × |

■タフアームシリーズ

| 機種名 | P | D | Spd | MCt | ECt | Sok | F | Cut |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| *LR4NX-FA 08 L/R* | 3,4 | 1～10 | 2～10 | × | × | × | ○ | × |
| *LR4NX-FA 12 L/R* | 3,4 | 1～10 | 2～10 | × | × | × | ○ | × |
| *LR4NX-FA 24 L/R* | 3,4 | 1～10 | 2～6 | × | × | × | ○ | × |
| *LR4080SR-T* | 3,4 | 1～5 | 2～12 | ○ | ○ | × | ○ | ○ |
| *LR4120SR-T* | 3,4 | 1～5 | 2～12 | ○ | ○ | × | ○ | ○ |

■海外プリンタ

CL4NX(203dpi)、CL4NX Plus(203dpi) ⇒ CL4NX(203dpi)
CL4NX(305dpi)、CL4NX Plus(305dpi) ⇒ CL4NX(305dpi)
CL4NX(609dpi)、CL4NX Plus(609dpi) ⇒ CL4NX(609dpi)
CL6NX(203dpi)、CL6NX Plus(203dpi) ⇒ CL6NX(203dpi)
CL6NX(305dpi)、CL6NX Plus(305dpi) ⇒ CL6NX(305dpi)

| 機種名 | P | D | Spd | MCt | ECt | Sok | F | Cut |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| *MB200i* | 3 | 1~5 | 1~2 | × | × | × | × | × |
| *MB400i* | 3 | 1~5 | 3~4 | × | × | × | × | × |
| *MB410i* | 3 | 1~5 | 3~4 | × | × | × | × | × |
| *XL400e* | 3,4 | 1~5 | 5~8 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| *XL410e* | 3,4 | 1~5 | 4~6 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| *M-84Pro-2* | 3,4 | 1~5 | 1~5 | ○ | ○ | × | ○ | ○ |
| *M-84Pro-3* | 3,4 | 1~5 | 1~4 | ○ | ○ | × | ○ | ○ |
| *M-84Pro-6* | 3,4 | 1~5 | 1~5 | ○ | ○ | × | ○ | ○ |
| *GT408e* | 3,4 | 1~5 | 1~11 | ○ | ○ | × | ○ | ○ |
| *GT412e* | 3,4 | 1~5 | 1~11 | ○ | ○ | × | ○ | ○ |
| *GT424e* | 3,4 | 1~5 | 1~5 | ○ | ○ | × | ○ | ○ |
| *CL4-SXR TT203* | 3,4 | 1~10 | 2~18 | ○ | ○ | × | ○ | ○ |
| *CL4-SXR TT305* | 3,4 | 1~10 | 2~16 | ○ | ○ | × | ○ | ○ |
| *CL4-SXR TT609* | 3,4 | 1~10 | 2~6 | ○ | ○ | × | ○ | ○ |
| *CL4NX(203dpi)* | 3,4 | 1~10 | 2~10 | ○ | ○ | × | ○ | ○ |
| *CL4NX(305dpi)* | 3,4 | 1~10 | 2~8 | ○ | ○ | × | ○ | ○ |
| *CL4NX(609dpi)* | 3,4 | 1~10 | 2~6 | ○ | ○ | × | ○ | ○ |
| *CL6-SXR TT203* | 3,4 | 1~10 | 2~14 | ○ | ○ | × | ○ | ○ |
| *CL6-SXR TT305* | 3,4 | 1~10 | 2~14 | ○ | ○ | × | ○ | ○ |
| *CL6NX(203dpi)* | 3,4 | 1~10 | 2~10 | ○ | ○ | × | ○ | ○ |
| *CL6NX(305dpi)* | 3,4 | 1~10 | 2~8 | ○ | ○ | × | ○ | ○ |
| *CT4-LX 203* | 3,4 | 1~10 | 2~8 | ○ | ○ | × | ○ | ○ |
| *CT4-LX 305* | 3,4 | 1~10 | 2~6 | ○ | ○ | × | ○ | ○ |
| *PW208NX* | 3,4 | 1~10 | 3~6 | × | × | × | ○ | × |
| *PW4NX* | 3,4 | 1~10 | 2~6 | × | × | × | ○ | × |

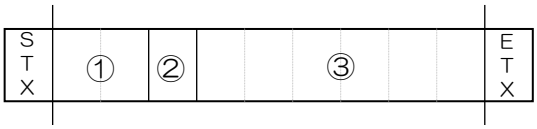
# 5-2 ステータス一覧

通信プロトコルのステータスについて説明します。

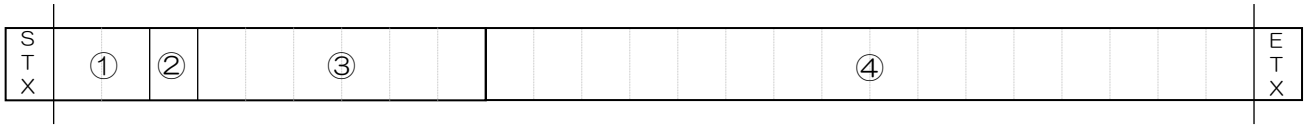
## ■ステータス文字列

GetStatus メソッドが返すステータス文字列は、プリンタから受信したステータスの前後（STX および ETX）を省いた文字列です。ステータスはプリンタ機種毎に新規追加・仕様変更される可能性がございますので、最新の情報はプリンタのコマンドリファレンスをご参照ください。

＜ステータス 3、ステータス L＞（9 バイト）




＜ステータス 4＞（25 バイト）




①ステータス ID（2 バイト）　Output メソッド使用時に設定した StatusID プロパティの値です。
②ステータス（1 バイト）　プリンタの状態です。（一覧参照）
③残りの印字枚数（6 バイト）　1 回の発行指示に対する残りの印字枚数です。
　ステータス L 選択時は貼付完了枚数です。
④ジョブ名（16 バイト）　Output メソッド使用時に設定した JobName プロパティの値です。

## ■ステータス一覧（ステータス 3、ステータス 4）

| 内容 | | | ASCII | 16 進コード | 送信可否 | 復旧可否 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| オフライン状態 | エラー無し | | 0 | 30 | ○ | ○ |
| | リボンニアエンド | | 1 | 31 | ○ | ○ |
| | バッファニアフル | | 2 | 32 | × | ○ |
| | リボン/ラベルニアエンド&バッファニアフル | | 3 | 33 | × | ○ |
| | 印字停止中（エラーなし）*ステータス4のみ | | 4 | 34 | ○ | ○ |
| オンライン状態 | 受信待ち | エラー無し | A | 41 | ○ | ○ |
| | | リボン/ラベルニアエンド | B | 42 | ○ | ○ |
| | | バッファニアフル | C | 43 | × | ○ |
| | | リボン/ラベルニアエンド&バッファニアフル | D | 44 | × | ○ |
| | 印字中 | エラー無し | G | 47 | ○ | ○ |
| | | リボン/ラベルニアエンド | H | 48 | ○ | ○ |
| | | バッファニアフル | I | 49 | × | ○ |
| | | リボン/ラベルニアエンド&バッファニアフル | J | 4A | × | ○ |
| | 待機中（ハクリ・カット待ち） | エラー無し | M | 4D | ○ | ○ |
| | | リボン/ラベルニアエンド | N | 4E | ○ | ○ |
| | | バッファニアフル | O | 4F | × | ○ |
| | | リボン/ラベルニアエンド&バッファニアフル | P | 50 | × | ○ |
| | 解析・編集中 | エラー無し | S | 53 | ○ | ○ |
| | | リボン/ラベルニアエンド | T | 54 | ○ | ○ |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | バッファニアフル | U | 55 | × | ○ |
| | | リボン/ラベルニアエンド&バッファニアフル | V | 56 | × | ○ |
| | 印字停止中（エラーなし）*ステータス4のみ | 受信待ち | E | 45 | ○ | ○ |
| | | 印字中 | K | 4B | ○ | ○ |
| | | 待機中（ハクリ・カット待ち） | Q | 51 | ○ | ○ |
| | | 解析・編集中 | W | 57 | ○ | ○ |
| エラー検出（オフライン状態） | 受信バッファフル | | a | 61 | × | × |
| | ヘッドオープン | | b | 62 | × | ○ |
| | ペーパーエンド | | c | 63 | × | ○ |
| | リボンエンド | | d | 64 | × | ○ |
| | メディアエラー | | e | 65 | × | ○ |
| | センサーエラー | | f | 66 | × | ○ |
| | ヘッドエラー | | g | 67 | × | × |
| | カバーオープン | | h | 68 | × | ○ |
| | カードエラー | | i | 69 | × | × |
| | カッタエラー | | j | 6A | × | × |
| | その他のエラー | | k | 6B | × | × |
| | カッタセンサーエラー | | l | 6C | × | ○ |
| | スタッカフル&リワインダフル | | m | 6D | × | ○ |
| | RFID タグエラー | | o | 6F | × | ○ |
| | RFID プロテクトエラー | | p | 70 | × | ○ |

- バッファオーバーは、インターフェースによって発生の有無が異なります。

## ■ステータス一覧（PW208NX シリーズ、PW4NX 追加分）

| 内　　容 | | | ASCII | 16進コード | 送信可否 | 復旧可否 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| オフライン状態 | バッテリニアエンド | | 5 | 35 | △ | ○ |
| | バッテリニアエンド&バッファニアフル | | 7 | 37 | × | ○ |
| オンライン状態 | 受信待ち | バッテリニアエンド | ! | 21 | △ | ○ |
| | | バッテリニアエンド&バッファニアフル | # | 23 | × | ○ |
| | 印字中 | バッテリニアエンド | % | 25 | △ | ○ |
| | | バッテリニアエンド&バッファニアフル | ‘ | 27 | × | ○ |
| | 待機中（ハクリ待ち） | バッテリニアエンド | ) | 29 | △ | ○ |
| | | バッテリニアエンド&バッファニアフル | + | 2B | × | ○ |
| | 解析・編集中 | バッテリニアエンド | - | 2D | △ | ○ |
| | | バッテリニアエンド&バッファニアフル | / | 2F | × | ○ |
| エラー検出 | バッテリエラー | | q | 71 | × | × |

## ■ステータス一覧（ステータスL 追加分）

| 内　　容 | | | ASCII | 16進コード | 送信可否 | 復旧可否 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| オンライン状態 | 印字待ち（通過待ち） | エラー無し | M | 4D | ○ | ○ |
| | | ラベル・リボン/ラベルニアエンド | N | 4E | ○ | ○ |
| | | バッファニアフル | O | 4F | × | ○ |
| | | ラベル・リボン/ラベルニアエンド&バッファニアフル | P | 50 | × | ○ |
| | 印字吸着起動信号待 | エラー無し | o | 6F | ○ | ○ |
| | | ラベル・リボン/ラベルニアエンド | p | 70 | ○ | ○ |
| | | バッファニアフル | q | 71 | × | ○ |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | ち／貼付中 | ラベル・リボン/ラベルニアエンド&バッファニアフル | r | 72 | × | ○ |
| | 通過中 | エラー無し | s | 73 | ○ | ○ |
| | | ラベル・リボン/ラベルニアエンド | t | 74 | ○ | ○ |
| | | バッファニアフル | u | 75 | × | ○ |
| | | ラベル・リボン/ラベルニアエンド&バッファニアフル | v | 76 | × | ○ |
| エラー検出 | ラベル接続エラー（ペーパーエンド） | | c | 63 | × | × |
| | ラベル貼付エラー | | l | 6C | × | × |
| | ラベル吸着ミス | | # | 23 | × | × |
| | 能力オーバー | | $ | 24 | × | × |
| | シリンダ動作不良 | | % | 25 | × | × |
| | タイマーエラー | | & | 26 | × | × |
| | ユーザー専用のエラー | | + | 2B | × | × |

## ■ステータス一覧（PT408e、PT412e 用ステータス 3）

| 内　　容 | | | ASCII | 16進コード | 送信可否 | 復旧可否 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| オフライン状態 | エラー無し | | 0 | 30 | ○ | ○ |
| | バッテリニアエンド | | 1 | 31 | △ | ○ |
| | バッファニアフル | | 2 | 32 | × | ○ |
| | バッテリニアエンド&バッファニアフル | | 3 | 33 | × | ○ |
| オンライン状態 | 受信待ち | エラー無し | A | 41 | ○ | ○ |
| | | バッテリニアエンド | B | 42 | △ | ○ |
| | | バッファニアフル | C | 43 | × | ○ |
| | | バッテリニアエンド&バッファニアフル | D | 44 | × | ○ |
| | 印字中 | エラー無し | G | 47 | ○ | ○ |
| | | バッテリニアエンド | H | 48 | △ | ○ |
| | | バッファニアフル | I | 49 | × | ○ |
| | | バッテリニアエンド&バッファニアフル | J | 4A | × | ○ |
| | ハクリ待ち | エラー無し | M | 4D | ○ | ○ |
| | | バッテリニアエンド | N | 4E | △ | ○ |
| | | バッファニアフル | O | 4F | × | ○ |
| | | バッテリニアエンド&バッファニアフル | P | 50 | × | ○ |
| | 解析・編集中 | エラー無し | S | 53 | ○ | ○ |
| | | バッテリニアエンド | T | 54 | △ | ○ |
| | | バッファニアフル | U | 55 | × | ○ |
| | | バッテリニアエンド&バッファニアフル | V | 56 | × | ○ |
| エラー検出（オフライン状態） | 受信バッファオーバー | | a | 61 | × | × |
| | ペーパーエンド | | c | 63 | × | ○ |
| | バッテリエラー | | d | 64 | × | ○ |
| | センサーエラー | | f | 66 | × | ○ |
| | ヘッドエラー | | g | 67 | × | × |
| | カバーオープン | | h | 68 | × | ○ |
| | その他のエラー | | k | 6B | × | × |

## ■ステータス一覧の送信可否・復旧可否

- GetStatus メソッドコール時、返送されたステータス部のパラメータ（3バイト目）が［送信可否］×の場合、［送信可否］○のステータスが返送されるまで、印字データの送信(Output、SendStringData、SendRawData)メソッドは実行しないでください。

- GetStatus メソッドコール時、返送されたステータス部のパラメータ（3バイト目）が［送信可否］が△の場合、印字データの送信は可能ですが、バッテリ残量と印字データ（印字濃度や発行枚数など）の関係によって、ラベル・タグ発行が正常に完了出来ない場合があります。ご注意下さい。

- GetStatus メソッドコール時、返送されたステータス部のパラメータ（3バイト目）が［復旧可否］〇の場合、プリンタがエラー検出状態であってもプリンタ側のエラー状態を解除（例：ラベルの交換等）する事によりプリンタ本体で印字のリカバリが可能になります。［復旧可否］×の場合、プリンタ本体の電源再投入が必要なエラーの為、既に送信済みの印字データについては破棄されます。

**■プリンタエラーの解除方法**

プリンタ付属の取扱説明書をご参照ください。

https://www.sato.co.jp/support/printer/